

プリムラ山の会（通巻78号）2009年11月4日発行 発行人：大坪邦久
編集/デザイン：ミズノデザイン 発行所：東京都八王子市散田町3-38-6B
primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.com>

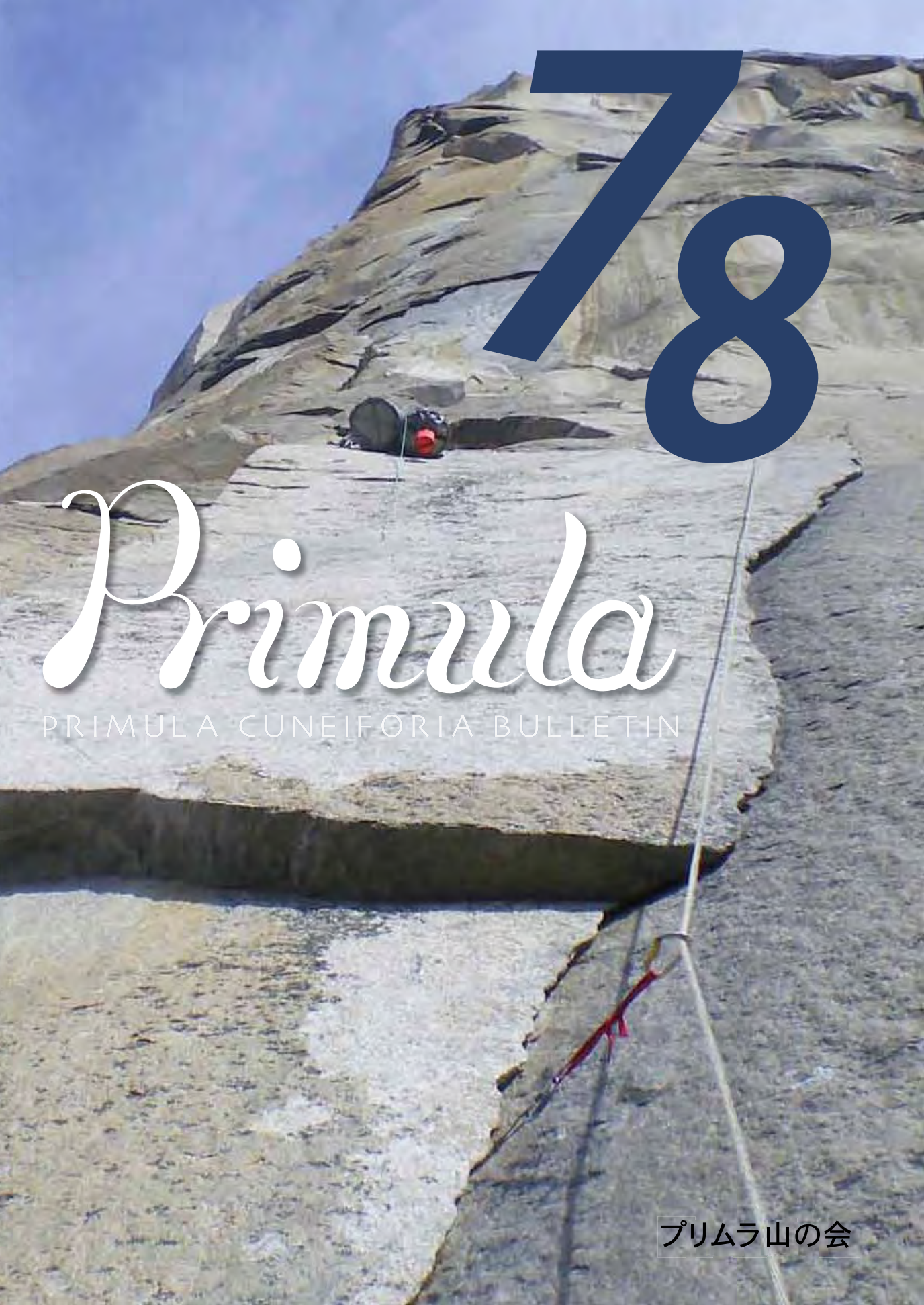
78

Primula

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN



プリムラ山の会

A photograph of a steep, layered rock face under a clear blue sky. A rope and a red carabiner are visible on the rock surface. The number '78' is overlaid in a large, dark blue font.

78

Primula

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN

プリムラ山の会

クーロワール62	002
78号の特集 オススメの行動食	003
In A Shot (岡 孝雄).....	005
屋久島から : paint it black [皆既日食]。(北原 浩平)...	006
前穂北尾根・北穂東稜 (市瀬 江利子)	009
前穂北尾根と北穂東稜 (平 真理).....	017
マイナールートは楽しいニャン =^_^=	
北ア・龍王岳東尾根の巻 (初鹿 裕康).....	023
魚野川本流 (市瀬 江利子).....	024
魚野川本流:焚火の話 [沢登り] (北原 浩平).....	027
旧友との念願の登攀	
「一ノ倉沢2ルンゼ」090927 (浅井 邦夫).....	029
谷川岳一ノ倉沢2ルンゼ(喜多方山想会 佐藤 和典)	032
なほみさんのいつまでたってもうまくなならない	
クライミング日記 最終章。憧れのビックウォールへの道	
はたして「The Nose」は登れるのか?【後編】(水野奈保美).....	034
景色を見ながら!夜叉ヶ池伝説マラニック(初鹿 裕康).....	051
山行一覧(2009年7月~9月)	057
編集後記	058
TIPSいろいろ	059

山の会にいるといふこと

山の会にいるということって何だろう。

さて、自分は何のために山の会に入会してきたのだろうか。

山の会に入れば当然面倒くさいこともある。

それなのになぜ、山の会に入ってしまったのだろう。

仲間作り、技術の向上のため、など色々なことがあるのかもしれない。

でも、それと引き換えに(?),山に行く時には計画書を出せと言われ、

登ってくれば原稿を書けと言われ、会費も払わなければならない。

まして、長く山の会にいれば当然新人対応も出来るようにならなければ

ならないだろうし、会もそれを期待している。

いつまでも連れて行ってもらえる訳でもない、

「育ててやった借りは返せよ」

っていう無言の圧力もある。

だから世代交代なんてこともよく言われる。

山の会って何だろう。

でも、自分に自信を持って

「プリムラ山の会の〇〇です」

って言えることって、

素晴らしいことではないかなと、この頃感じている。

78号の特集 オススメの行動食。

私が山に行き始めた当時は、加藤文太郎の影響もあって、甘納豆をよく持っていった記憶がある。山にはどうしても甘い食品が必要になってくる。暑い時季だと、チョコレートは溶けて食べる時に困る。その点、甘納豆は重宝した。

たまにセブンイレブンで、「おにぎり」を衝動買いする時がある。そして、食する段になって、食欲がわかなくなって後悔の念を抱くのである。

今はもっぱら菓子パンが多い。菓子パンはおにぎりと比べて軽く、種類を多く持っていけば飽きることがない。中でも、メロンパンとジャムサンドにしたコッペパンはお気に入り、山に持っていくことが多い。(山里)

お煎餅(塩味)、かりんとう、甘納豆…やっぱり和菓子。(平)

私の行動食はパスコの葡萄パンです。(柿園)

ウイダーエネルギー、いわゆるゼリー飲料。カロリーと水分を同時に取れるので良い。ただし重い。磯部餅。おにぎりより食べやすいので、レース時には有効。いずれも、遠征とかトレイルランのときに使用しています。普通の山にはあまり持っていかないかも…。(初鹿)

何と言っても「魚肉ソーセージ」。これさえあれば、バテバテの時でも、水が無かろうと、元気を注入できる。それにプラスするなら「ミックスナッツ」こいつを併せて食べれば20時間でも行動できる。

注意:夏は、ソーセージが傷んで、中心が黄色くなります。でも美味しいよー!(浅井)

最近クライミング中は昼食も含めてほとんど食べないので、行動食というより日中の食べ物のすべてなんだけど、八王子のパン屋さん「Boule Beurre」のナッツorドライフルーツがたくさん入った固いスティック状のパンを1本か、レーズンクルミのライ麦パン数切れ(しかもこれで2人分)が最近の定番。打ち込んでいるときはウイダーゼリーをトライ前に少しづつ摂る。余裕があるときはライ麦パンにトマトクリームチーズベーコンバジルサンドやソーセージのつけたおにぎり1個づつ作ってって、アプローチ前に食べる。(水野)

冬、夕闇迫る吹雪の源次郎、剣岳頂上直下、同一パーティとして行動して来た、T岳人倶楽部のKさんがポケットから「柿の種」をひとつ取り出し、ハイと言って私にくれた。凍った手袋で破き、口に流し込むと、生き返ったような気がした。その何十秒か後、あっという間に私達は雪崩に流されたが、彼女Kさんのアックスが一本だけ効いていて、助かる。それからというもの、冬の登攀にはヤッケのポケットには必ず、非常食兼行動食として入っていた。「柿の種」の袋には、思い出と憧れが詰まっていて、普段でも大好きなもののひとつです。

…表題とは関係のないまったくの余談:

剣の頂上で雪洞ビヴァークした翌日も完全な冬型。早月への降り口がわからないでいた白稜会の5人と一っしょに吹雪の早月を下山。2600mをすぎたところで雪洞ビヴァーク。そして伊折までの長い道のり…ほんとに試練と憧れの山だったんだなあ、なんて感傷にふけるのも、歳なんではなか(小堀)

「黒ごまきな粉・黒糖入りげんこつ」
多少重いのですが、昔の味・食べやすさが気に入っています。

原材料 水飴・大豆 わざわざ(遺伝子組み換えでないと表記)・ごま・はったい粉(裸麦を焙煎して挽いた粉)・グラニュー唐・ラクチール黒糖・蜂蜜・ブドウ糖・食塩・酵母エキス販売者・山栄食品・岐阜市細畑24回全国菓子大博覧会金賞受賞 とあります(岡)

お気に入りの行動食は、最近平ちゃんに影響されておかきが美味しい。

それとドライマンゴー。岩などでばてそうな時は、これを食べると元気がでます。そして、やっぱり初日はおにぎり。最近年のせいなのかご飯が美味しい。

二日目以降はランチパック。最近いろいろなバリエーションが出ているけど、やっぱり基本はピーナツクリーム&チョコクリーム。(市瀬)

どうしても東京を出発してから、コンビニで買出しすることになる。いつもパン類の選択が難しいと思ってた。岡さんの影響(?)で最近のお気に入り、コロケやメンチカツを挟んだサンドかドック。甘いものを選びがちなのだけど、山で食べると美味しいのはコッチの方。カレーパンはイマイチが多い。日持ちしないのが難点でけど、山は涼しいので多少の賞味期限ぎれでも大丈夫!?(北原)



錦秋の鏡池(戸隠・鏡池)2009.10.19.撮影

今夏だけでなく最近の天候は実に変だ。温暖化の影響と決め付けるだけの、科学的な根拠を持ち合わせていないのだが、確かなことは寒気が入り込んでいることだ。そのため入山口までは良しと判断しても、山中に入ると霧やモヤ!私にこんな状況でも被写体を発見する観察力と腕があれば別だが?これでは撮影に向かない。モクモクとする入道雲が戻ってきて欲しい。冬には高層気象に気をつけるが、当たり前のことだが年間通じて注意しようと思う。

鏡池には年間5回くらい行く。春秋が多いが、戸隠山に新雪が積もった時期がやっぱり一番だ。この作品は「龍ヶ崎写真クラブ」撮影会でのもの。池の周りにズラーと三脚が立つ。中高年以下はお断り!とでも書いた立て看板があるのではないかな?とも思える光景が広がる。勿論岡も仲間

だ!確かに自動車で直接入れて、変化の多い自然の中に身を置くことが出来る。五感で感じ?写真という記録で残し、後程個人で仲間で楽しむことが出来る?車社会とデジタルカメラ、金銭・時間的余裕?まさに中高年社会の縮図が展開されている。勿論岡も仲間だ!

こんなことを考えながら暗いうちから待っている。薄雲が広がっていたが次第に青空となり、皆の期待に応えてくれる。いつか写真で見た光景を確認し、自分のカメラに記録する。安心して宿に帰っていく。サアこれから朝風呂にでも入るか?しばし待て!雲が流れてくる。消えないでくれ!満足は出来ないまでもピーカンよりはいいだろう最後に2カット、デジタルとフィルムで押さえた。

屋久島から : paint it black [皆既日食]。

Primula 78

北原 浩平

(日時)2009年7月20~22日(月~水)
(メンバー)北原・他1名



見えるはずだったダイヤモンドリング(朝日新聞より)

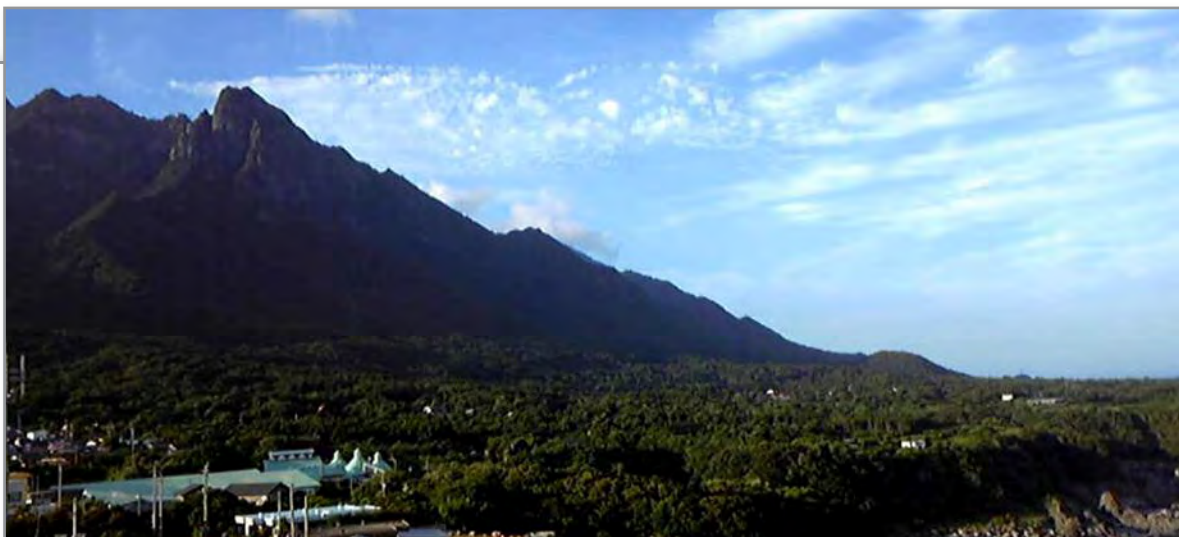
屋久島で皆既日食を見る。

行きたい場所で得がたい体験ができるなんて、と数ヶ月前からいろいろ調べたところ、村が認めたツアー以外では入島できないとのこと。その段階でツアーを探しても、いずれもキャンセル待ち状態。いったんあきらめたのだが、山スキーシーズンが終り、夏が来ると思いはつる。皆既日食ハンターのウェブサイトを見つ

け個人手配をやってみた。一番の難関は鹿児島から屋久島までの船と期間中の宿の手配。現地に直接あったたら、なんと船は予約できてしまった。チケットの発券にいったjt看の社員も「よく取れましたね、プレミアムチケットですよ」だって。うーん、これはすごいことなのかも。宿は初日と最終日以外は取れず、宿泊のあてがないと船で港についても入島できないとの情報。予約のない3泊分のうち、1泊は宮之



paint it black: 光り輝く地平線の雲



モッチョム岳:この頂上から日食を見る計画だった

浦岳縦走でキャンプし、皆既日食の22日をはさむ2泊は、ぎりぎりになって島南部の尾の間で外人さんと日本人の女性がやっている農園でキャンプがokに。そこは、ゴーシュ直子のジェリーズキャンプ場。

こんな感じで書き始めると長編になってしまうし、山の会の会報にはふさわしくないのでは、一気にまとめちゃいます。写真はデジカメのものが見つからず、携帯のものなので見苦しいのはご勘弁を。

屋久島は、山も海も川も、そして森が素晴らしい。ここにしかないものがあるから世界遺産は当然だと感じる。宮之浦岳縦走もとても良かった。屋久杉だけでなく、いろんな樹木が大きく育っている。例えばヒメシャラとか、あの平家物語にでてくる沙羅双樹の木、仏陀がその下で悟りを開いたといわれている。しかも成長が早いのではなく遅いのでかくなっている。花崗岩の岩盤のうえに育つ樹木たち。屋久島の猿や鹿にもあちらこちらで出会うし、海亀が産卵する砂浜はあるし、沢も滝もでかい。また島独特

の空気が旅人には心地よい。

では肝心の皆既日食のレポート。22日は荒れた天気、結局、太陽は顔を出さずじまい、でも皆既日食は体験できた。4分間の神秘的な闇の世界。地平と水平線には残照があり、雲が光り輝いていた。同じ場所で体験した30人くらいの人たちと、



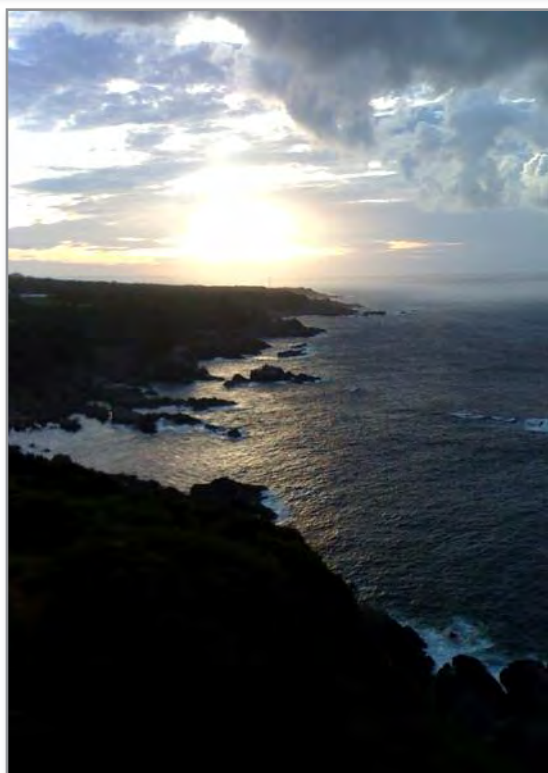
ご存知縄文杉



森のヤドリギもでかい

一瞬一体になった感じがした。paint it black:鮮やかな色彩の屋久島の風景を、黒いクレヨンで塗りつぶしていく感じ。むらがあって、完全な真っ黒にはならないが十分に暗い闇。騒いでいた鳥も静かに黙りこくる。

やはりちゃんと体験したいと思う。来年7月はイースター島である。南太平洋を皆既帯が横断していくが、パタゴニアでも見れるらしい。



屋久島の日の出

市瀬 江利子

山域:北アルプス前穂/北穂
日程:2009年8月15日(土)-8月19日(水)
1/25000地図:穂高岳
メンバー:市瀬江利子、平真里



以前冬に登った前穂北尾根は、厳しい山行だったはずなのに、なぜか思い出すのは晴天の中下った岳沢だ。きらきらと光った沢全体が眩しかった。そしていつか5、6のコルから夏場に登ってみたいと、どこかで引っかかっていたルート。今年のお盆はみな忙しいらしく、平ちゃんと2人の山行だ。本ちゃんのメジャールートに行きたいと言う、彼女の意向もあり、この穂高が浮上した。そこに、北穂に登るときは是非このルートから登りたいと思っていた北穂東稜を絡めて行くことになった。

2009/8/14

新宿(23:00)=夜行バス=沢渡(5:30)

バスの予約は全部平ちゃんにお任せ。私は指定された場所に行き、初めて夜行バスで沢渡へと向かった。

2009/8/15

沢渡(5:45)=上高地(6:00-6:30)-涸沢(14:15)

沢渡からバスを乗り換え上高地へ。上高地は霧がうっすらとかかっている。稜線上には日があたっていて、高低差に圧倒される。今日は涸沢まで、とにかく重荷を背負って歩くのみ。重い重いといいながらも、徳沢を過ぎ、横尾を過ぎ、苦しい最後の登りを越えて涸沢へたどりつく。実は涸沢に来るのは初めて。思っていた通り、素敵なところだ。おまけになんでも売っている。お酒やつまみは持ってこなくても良かったかも??まずは小屋の前のテラスにリュックを置いて生ビールで乾杯。テントを設営。

夕方になると、ガスが出てきた。明日の天気は思っていたよりも良くない。気持ち的には明日北尾根に登りたいが、天気は明け方がいまいち。



登山からゴーロへ。
奥のルンゼを左俣へ行ったが、実は右俣だったのかも？



ルンゼから東稜への最後の登り

2009/8/16

涸沢(5:30)-東稜取り付きのモレーン
(7:00)-東稜稜線(8:15)-ゴジラの背(9:15)-
北穂山頂(11:00-12:15)-涸沢(14:50)

夜半過ぎから雨が降りだす。明け方、まだ降っている。今日は駄目かな。午前中には回復する予報だったので、北尾根に行くかどうか、さんざん迷うが、濡れた岩に踏ん切りがつかず、結局初日は北穂東稜に行くことにする。

北穂への一般道をひたすら登る。このころには快晴となり、前穂北尾根が良く見える。5、6のコルや3峰など、明日登るルートを確認しながら高度を稼ぐ。こちらから見る前穂北尾根は本当に綺麗なシルエットをしていて、見とれてしまう。

広いゴーロに出たところから、一般道

を離れ東稜へ向けてトラバースを開始。「最低コルから延びるルンゼを辿る」とガイド本にあり、単独の先行者もいたため、あまり迷うことなくその顕著なルンゼに目星をつける。途中から右へもう一つルンゼが延びていて、そちらの方が最低コルに向かっているが、下から見るとかなり急で難しそうだし、先行者も左俣を登っていたため、特に疑問に思わずに後に続くことにした。しかし、先行者が相当な落石を起こしていて、むやみには近づけない。ゴーロ上で休憩を取り、落石が収まった頃、ルンゼへと向かった。

左俣は落石を起こすのも無理も無いガレガレのルンゼで苦労する。詰めは急な草付きを交えた安定していない岩場を登り、最後は重なり合った大岩を恐る恐る登っていくと、素敵な稜線へと飛び出た。



東稜より前穂北尾根と平ちゃん



東稜より前穂北尾根

初心者がザイル無しで登るにはあまりにも急で、不安定なので、間違っているかなとも思うが、怖い思いをしたとの記録もあり、やっぱりここかなと思うことにする。稜線はお花も咲き、広々としていて、天国のようなところ。正面には槍ヶ岳も見える。

ここでハーネスを着け稜線を登って行く。右側はそれほど傾斜も無く、怖さは全く無い。簡単な岩稜を登って行くと、支点がある岩場に到着。ここでザイルを結び、IP目を登りだす。岩場を左に一度捲いて、そこから直上しようか、トラバースをしようか迷っていると、後から女性二人を連れたガイドが、直上だと教えてくれる。直上し、岩稜の右側を進むと、ゴジラの背に出る。高度感はあるが、足場もたくさんあるので怖さはない。その後はザイルを

引っ張って懸垂下降地点まで。ガイドはクライムダウンで客を降ろしていたが、最初の数mが切れ落ちているので、私達は10程の懸垂で降りる。ここから北穂の頂上までは、意外と分かりにくい。どれも踏み後に見えてしまう。右へ右へとルートを取ると、キレットからの一般道へと辿りついた。後は小屋まで登るだけだ。せっかくなので、小屋のテラスでスパゲッティとビールで乾杯する。その後、北穂頂上で素晴らしい景色を堪能し、涸沢へと向かう。

さて、ゴーロと分岐の手前で、私達の通った左俣では無く、右俣を登っている2人パーティーを発見。間違えているんじゃないかなーと見てみると、意図も簡単に稜線上へと出てしまった。そうか、こちらが正解で、(たぶん)私達と単独者は違う



ゴジラの背

ルートを通ってしまったんだ、とこの時に判明。確かにちょっと難し過ぎたような。。。でもまあ、とりあえず行けたのでよしとして、涸沢へ。明日の為に、氷河と5、6の科尔へのルンゼあたりを偵察に行く。問題なく行けそうなので、ほっとする。今日は北尾根には誰も入っていなかったようだ。明日は快晴の予報。さて、いよいよ本番は明日。早めに就寝。

2009/8/17

涸沢(4:00)-V VIの科尔
(6:00)- IV V の科尔
(7:20)-III IV の科尔
(8:00)-前穂高岳(14:15)-
奥穂高岳 (17:40)-涸沢
(19:30)

4時に出発。氷河上がまだ凍っていて多少滑る。平ちゃんはすごく慎重で、アイゼンを履くと言う。どうせ、すぐ脱ぐしそこまでだよと言ったが、聞き入れてもらえず。暫く氷河上を歩き、その後、ゴーロ状の岩場から踏み後へ。踏み後はいくつかあり、明瞭なものを選んで登る。前に男女交えた6-7人のパーティがいる。私達の後ろには誰もおらず、結局彼ら以外に会うことがなかった。日が昇りきった頃5、6の科尔でハーネスを着け出発。今日は快晴だ。



北穂頂上にて、槍をバックに



北穂から見た前穂北尾根

5峰は踏み後を辿り問題なく登れる。5峰を越え悪いと言われている4峰へ。4峰は見るからにぼろぼろな感じで悪そう。踏み後を辿っているといつの間にか涸沢側に回り込む。傾斜もそこそこあり、岩は脆く結構悪い。出来ればザイルがあれば安心だが、支点も無いし、落石を起こして返って危険かもしれない。ここから奥又白側へと登り返すと大岩の手前にペイント?があるらしいが、見つからず。大岩下のバンドでどうするか考え、結局直登はせずに、ザイルを出して、涸沢側から捲いてみることにした。

がしかし、最初のうちは傾斜もそれほどでもないが、そのうち急になる。ハーケン等、要所に打ってあるが、決してしっかりしたものではない。最後、上に抜ける手前、一番の核心でザイル後3mの声。えっ、後5mは欲しい。。。が、なんとか引っ張っ



4 峰

て後2mを捻出。50mザイルぎりぎり、上に抜けた。4峰のここまでがもしかして一番厳しかったかも??

この後は3峰へ向けて稜線を忠実に3ピッチで3、4の科尔への下りへ。3、4の科尔でクライミングシューズに履き替え、しばし休憩。

ここで真面目な平ちゃんが、ガイド本通りに、「ここで行動食を取って、前穂まで一気に登るんですね」と言うので苦笑する。「でも、たぶんガイド本通りには行かないと思うよ」と私。

さて、一段上がったテラスまで登ると、心もとないハーケンがあり、ここを支点とする。ここから先、市瀬リード。

1ピッチ目

左側から回りこむ。大岩へ登り上がる部分の手が無くて思い切りがいる。その後、



1P目を登る平ちゃん

左にルートを取りトラバース気味に回り込む部分がちょっと嫌らしく、カムを一本足して登る。上の支点でもカムを足してビレイをする。

2ピッチ目

正面リッジに回りこみ、チョックストーンの左側にルートを取る。

3ピッチ目

チムニーの左フェースを登る。手と足は豊富にあった。

4ピッチ目

岩峰の下までザイルを伸ばしていく。

5ピッチ目

正面ではなく、左の岩下から回り込み、3峰頂上へ。

6ピッチ目

3峰から2峰へはナイフリッジに行く。懸垂下降地点までは高度感あり。

2峰から、懸垂下降でコルへ降り、ザイルをしまう。ここから先は頂上目指して登るだけ。この瞬間が最高に気持ちが良い。登りきる前から嬉しさがこみ上げる。

ほどなく頂上へ到着。前回登った時の事が思い出される。また、ここに戻ってきたなと思う。なんかいろんな思いが入り混じり、涙がでそうになる。でも感慨に耽っている時間もあまり無い。既に2時を回っていて、頂上には誰もいない。仕方が無いので、お互いのカメラで写真を撮り、ガチャを仕舞うと下りにうつる。

しかしまあ、ここからが長かった。

あまりバテていないと思っていたが、やはりバテていたのか、前穂からの下りに時間がかかり、更に吊尾根は遅遅として進まず、奥穂に着くころは小屋の夕食

時。ザイテングラートはもう勘弁してというくらい疲れる下りで、薄暗くなってくる。

すると下からクライマーっぽい男女ペアが登ってくる。この時間にまだここを登っているなんて、気の毒だなあ、と思い、どこを登ってきたんですか?と聞くと、屏風岩を登ったが時間切れでT4までで戻って来たという。で、テントを上置いてあるので上まで抜けなくてはならない、と。なんで上にテントがあるんだ??なんか良くわからないまま、がんばってくださいと言って、別れた。

ヘッドンを点けつつ、テン場到着。

2009/8/18

瀬沢(10:15)-パノラマコース-屏風の耳(12:50)-徳沢(17:00)

今日も快晴。ゆっくり寝ようと思ったが、日が当たり暑くて寝てられない。

最高の景色の中、外でゆっくり朝食を取り出発。開通しているというパノラマコースから徳沢へ向かう。パノラマコー



3 峰を登る

スはところどころ悪く、ロープが着いているところも多々ある。おまけに落石も結構あるみたいで、現に私達が通ったあと、ガラガラッと大きな音を立てて、落石が起こっていた。屏風の耳へは当初行くつもりはなかったが、分岐点で会った親子に是非行ったほうが良いと薦められて、急遽空身で往復することに。屏風岩に行くときの下見になるかもという下心もあり、行ってみたが、穂高連峰が全て見渡せる素敵な場所でした。きっとここから見た紅葉は素晴らしいと思う。

お花畑を過ぎ、奥又白池への分岐を分けて、徳沢まで川原沿いに行く。徳沢でソフトクリームを食べようとがんばって歩く。徳沢のテンバは芝生で良いところだが、蚋がいるので要注意。



快晴の中、完登できて最高です

2009/8/19

徳沢-上高地=沢渡=松本=新宿

今日は帰るだけ。5日間の穂高滞在もあったという間だった。

観光客でごった返す上高地を抜けホテルアルペンで入浴。帰りはバスと電車で帰途に着く。

今回途中出会った人達は、こんなちびっ子2人で前穂北尾根に登るといってみなびっくりしていたが、やっぱり女性二人で登るというのは、お互いに覚悟のあることであり、意味のあることだと思う。今回2ルートを完登できたことは、どんなルートであれ、本当に嬉しい。

平 真理

日程:2009年8月15日~19日

メンバー:市瀬、平

[コースタイム]

8月15日(土):上高地06:30-明神07:30-徳沢08:40-横尾10:10-
本谷橋11:50-涸沢14:00

8月16日(日):涸沢05:30-東稜取付07:30-稜線08:20-ゴジラの
背09:30-北穂小屋11:00--(休憩)--山頂12:10-涸沢15:00

8月17日(月):涸沢04:10-5,6の科尔06:20-4峰07:10-3,4のコ
ル10:40-前穂山頂14:00-(休憩)-奥穂山頂17:20-涸沢19:30

8月18日(火):涸沢11:20-屏風の耳13:00-奥又白池分岐16:30-
徳沢17:10

8月19日(水)徳沢07:00-明神08:00-上高地アルペンホテル09:20(入浴)-上高地バスターミナル
10:30



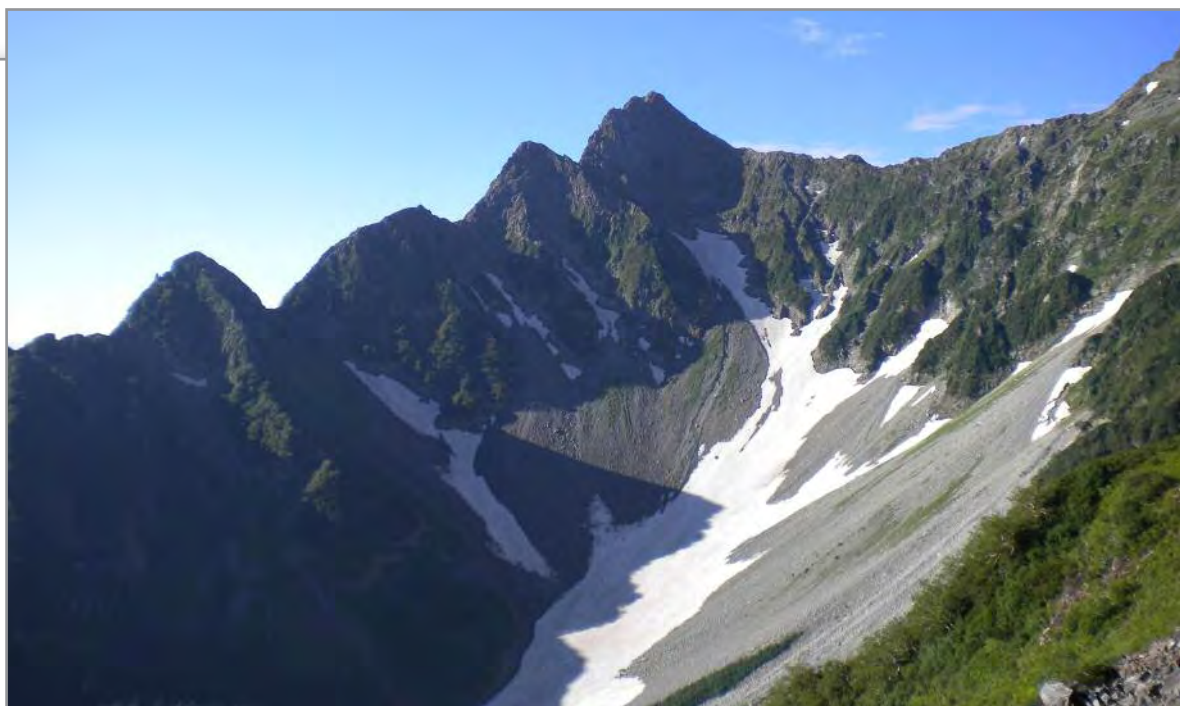
8月15日(土)

前夜発のさわやか信州号に乗って、上高地バスターミナルに着いたのは6時ごろ。朝食をとったり、水を入れたりして、30分ほどしてから出発。快晴。重荷につぶされそうだが、平坦な道のおかげで、ほぼコースタイム通り。ただ休憩時間だけが長くなってしまった。横尾からは急な登りに入って、ぐっと歩くスピードが落ち、ほかの登山者に道を譲りながら歩く。行きも帰りも人が多い。小屋が近くなったところで、雪道。凍っていていやらしい。涸沢ヒュッテと小屋の分岐に辿りつくと、ヒュッテ側のトラバース道には、しっかりステップが切ってあった。14時過ぎ着。テントも張らずにまずビールを飲んだ。ヒュッテから小屋へ続く道の、谷側がテ

ント場になっていたが、山側には、まだ雪が残っていた。(5月は、山側にテントを張ったのだ。)明日か明後日、前穂に登るのは、天気の良い日でなくては。テント受付前に掲示の天気予報やら、ヒュッテ入り口の映像による天気予報やら、何度も確認するが、前穂と北穂のどちらに先に登るか結論は出ない。市瀬さんのナマモノ大量の夕食をいただいて就寝。

8月16日(日)

3時起床。深夜から降り続いた雨はまだやんでいない。とりあえず、朝食をとって様子を見る。周囲が明るみ始めると雨もやんだ。きょうはこれから晴れそうだが、明日も晴れるだろうか。明日は午後から夜半にかけて雨が降りそうだ。少し出遅



明日は前穂へ-北穂に向いながら仰ぎみる

れたとはいえ、いま出発すれば前穂に登ることもできる。と、散々迷ったが、翌日も終日晴れそうな予報に好転したので、ちょっと待機して、行動時間の短い北穂に登ることにした。ロープは1本に--市瀬さんが持ってくれた--、ギアも減らして太陽が顔を出したところ出発。

北穂に向う大勢の登山者に混じって、登山道を登る。1時間30分前後で、登山道を離れ、右にガレた沢をトラバースした。混雑した道から離れられてほっとする。取り付きに至る前に、ザックを置いて休憩、ヘルメット装着。私たちが追い抜いた単独先行者が、ガレ場を登っているのが見える。その後、けたたましい落石の音がした。

なんとなくある踏み跡をたどって、涸れた沢を右に、左に移動しながら登る。石が浮いて足がなかなか決まらず、灌木に逃げてみたりもする。稜線が近づくと、安

定した岩場になり、ホールドに頼って登れる。先に行く市瀬さんに後光が、と思ったら稜線に出た。反対側の斜面には、明瞭な登山道もあった。ザックを下ろして休憩、ハーネスを着ける。

大きな岩の間を縫うように登ると、ゴジラの背とおぼしき場所に着いた。支点が打ってあるが、バックアップにカムを使う。市瀬さんリード、上にまっすぐ登るか、トラバース気味に進むか、迷っている。私が、本のおぼろな記憶でトラバースと口走るが、誤りだった。後ろから、ルートが違う、と声がかかり、振り向くとガイドパーティー3人組。まっすぐ登ると、支点が続けて打ってあるようだ。後は迷うところなく、ビレイポイント。写真でよく見たところを通過して、交代。次は、ほとんど歩きで、懸垂支点。最初に降りる1歩が遠いので、かけてあるロープにぶら下がり、足場が決まったところで、クライム



北穂東稜へご案内

ダウンするか、最初から懸垂で降りるか迷う。ガイドパーティーと交代して、先に行ってもらふことにしたら、岩角にロープをまわして、難なく2人下ろしていた。怖かったので私は懸垂で下りることを主張、わずかな距離だったが、ロープを下ろしてもらふ。懸垂下降が終わったら、ロープをしまって、歩くだけ。途中で、槍からの登山道と合流して、北穂の小屋に着いた。

潤沢岳をまわる案も当初はあったが、いまやそんな気は尽きていて、小屋の食事をもってゆっくり休憩。たいしてお酒を飲めないのに、いつも飲みたがる市瀬さんが、缶ビールを購入。反対した私も、ちょっとご馳走になって、でも山頂だから用心して量は控え、山頂にあがってから、長々と休憩した。下山開始。帰路は2時間もあれば着く、とたかをくくっていたところ、いっこうに、テント場は近くならず。もう午後だというのに、東稜に向うパ

ーティーが見えた。私たちより、1本右の沢を登っている。あちらの方が正しかった？

15時ごろテント場にたどりつく。日当たりの良いテント場は暑く、密閉されたテント内の水は生ぬるくなっていた。行動終了に安心して、缶ビールを購入して、今度は空けた。翌日に備えて早めの夕食をとり、就寝。

8月17日(月)

気合を入れて2時起床。音を立てないようにしながら、朝食をとる。星空がきょうの晴天を約束していた。準備をしていると、すでに5,6のコルに向う先行者のヘッドランプが光っていた。4時まわって出発。雪渓が凍っていて滑るので、6本爪アイゼンを付ける。すぐに左の山側に入って、アイゼンを外すことになり、着脱に時間がかかる。途中、私たちよりさらに上を巻く



前穂万歳

ように歩いていた6人パーティーと出会う。山岳会の人か。踏み跡はしっかりしていて、昨日のガレ場を思うと、格段に歩きやすい。雪渓通しに行く道もあるのかもしれない。

6時半も近くなるころ、5,6のコルに着く。ヘルメットとハーネス、ギアを装着し、クライミングシューズは、3,4のコルで履くことにする。先ほどのパーティーがハイマツに見え隠れしながら登っているのが見える。続く4峰がわかりづららしい。

もう1度、ルートの復習をしてから、登り始める。本に従って涸沢側から巻く、そしてペイントがあるところから奥又白側にバンドを辿って大岩、のはずがペイントがわからない。適当なところから進路を左にとり、支点のあるところでロープを出す。私、確保。先行パーティーは、そこから左に向っていた。が、本によると、左の凸角からまわるには、ロープが必要で、

右から巻ける、との記述。あきらかに、左に行きたくなるのだが…。

右に行ってみることにするが、巻けるようなところはなく、岩の間、傾斜のあるところを無理矢理登る。ここをロープなしでホントに登るの？懲りたので、次のピッチもロープで確保して登る。さらに、私が踏み跡に誘われるように右に行くと、行き詰まってピッチを切ることに。市瀬さんに交代して、登ってもらう。垂直の岩の割れ目に入り込んで、度胸で体を上げる。抜け出ると救いのピンがあった。

3,4のコルでひと休み。クライミングシューズに履き替えた。ここから本番だというのに、4峰でかなり消耗してしまった。

気を取り直して出発。確保の体勢に入る。フォローで登るが、ちょっと身を乗り出すところがあつたりして緊張する。続く2ピッチ目、リードするか聞かれたが、



さようなら潤沢

ここまででルートが読めないことを思い知ったので、お任せしますと言って、さっさと確保の体勢になる。

1ピン目にかけたロープが屈曲して、カラビナがかたかたと苦しげな音を立てていた。事前に参考にした本と照合できたのは、この最初のピッチくらい。あと、チョックストーンとチムニーは、左にゆく、ということだけは、わかるだろうと考えていたが、なんとなく過ぎてしまう。

6ピッチまであったのだろうか。最後のピッチ、傾斜がきついうえに、登りきらないと支点がない。岩の間に体を挟みこんで摩擦を利かせたが、かなり苦しい体勢だった。そこから、2峰ピークの懸垂支点へ。支点手前が落ちていて、微妙なので、念のためロープを出してもらおう。

クライミングシューズのまま登り、前穂の山頂に14時ごろ着。誰もいなかった。

初めて踏んだ山頂に喜びをかみしめる。証拠写真を撮って下山。紀美子平までの道は、登山道にもかかわらず、かなりわかりづらい。ここで早くもコースタイムオーバーである。陽はさんさんと降り注ぎ、よれよれになりながら奥穂を目指す。ピークかと思う影には、3度以上だまされた。潤沢には陽のあるうちに着けそうにない。夕暮れの気配も濃い17時過ぎ、奥穂の山頂に着いた。

あとは、ひたすら日没との競争である。とにかく、陽のあるうちに岩場だけは通過するべく先を急ぐ。数箇所の鎖場も通過、そろそろヘッドランプかと思うころ、明瞭な踏み跡に入った。いまだに登ってくる人とすれ違って---聞けば屏風を敗退して奥穂のテントに向うとか---大いに勇気付けられる。19時半テント場着。身ぐるみ着替えて、スープものだけ食し、シュラフに潜り込む。目覚ましはかけない。

8月18日(火)

朝寝を楽しむつもりが、あまりに暑くて寝ていられなかった。外に出て、ドリップでコーヒーを入れてもらい、朝食。

エアリアを見て、コースタイムを短縮できそうな、パノラマコースで徳沢まで行くことにした。予定時刻を大幅に過ぎて、11時をまわって出発。登山道から、涸沢の眺めが良い。道は明瞭だが、悪い場所もそこそこあって、ロープが張ってある。途中、ザックが岩の間に挟まって動けなくなり(外に出ようにも重荷に振られて落ちそう)、冷や汗をかいた。屏風の耳との分岐まで来たときには、疲れきっていて、往復1時間ちょっとある耳までのピストンはやめよう、と話がまとまった矢先に、ぜひ行ったほうが良いと勧める父子に誘われて、登ってしまった。まさに眺望はよく、昨日登った前穂からぐるりと槍まで見える。広すぎて写真には撮れなかった。

13時過ぎ、分岐まで帰ってこれから涸沢へ向う父子と別れ、下りに入る。涸沢から、奥又白側に方向転換し、草木と樹林の道になった。歩きやすい平坦な道に安心するが、かえって、岩だらけの傾斜のある道に重荷を感じる。高度が下がるにしたがって暑さが増してきた。奥又白池との分岐についたのが16時過ぎ。汗だくで我慢できずに、沢の水を頭にかぶって洗髪。あとひといき。元気を取り戻して、一路徳沢へ。沢を離れると道はほとんど平坦になる。途中、奥又白に向うらしいクライマーの2人組と会った。

17時前に新村橋を渡り、人通りの絶えた上高地への道を徳沢へ向った。徳沢着。ザックを放り出して、ビールにする。おいしかった。徳沢は、下界の雰囲気、バーベキューパーティーなどやっていたが、テント場は空いていた。山での最後の夜を、明日への気遣いもなく、幸せに過ごした。

8月19日(水)

5時起床。山あいのせいか、涸沢と違ってなかなか陽が差してこない。7時出発に決めていたので、諦めて夜露に濡れたテントをたたむ。すべて食糧も供出して荷が軽い。昨夕と違い、人に溢れた登山道を歩く。5月に猿の大群を見た話をしたためか、市瀬さんはどうしても猿の写真を撮りたかったらしいが、猿は1度現れたきりでカメラを取り出す間に姿を消した。明神で休憩を挟み、河童橋に着く。橋を渡って、アルペンホテルに行き入浴。外来入浴10時まで。

上高地バスターミナルに向かい、バスで新島々へ。熟睡。新島々から列車で松本着。駅弁とビールを買って帰路についた。

入会前から登りたいと思っていた前穂北尾根に、天気と、パートナーに恵まれたおかげで行くことができた。終始、リードしてくれた市瀬さんありがとうございました。---私の夏はここで燃え尽きたらしく、半月ほど脱力状態、自宅が荒廃した。

【コースタイム】

8/28曇室堂(10:28)－雷鳥沢B.C(11:57)

8/29 雨/曇 (10:22)－一の越(12:11)(12:17)－取付(13:00)(13:26)－龍王岳
(15:13)(15:31)－一の越(16:12)－B.C(17:00)

8/30 曇/雨、晴(5:26)－一の越(7:06)(7:20)－雄山(8:14)(11:08)－一の越(11:40)(11:53)－室
堂山(12:41)－みくりが池温泉(13:49)－B.C(??)

8/31 曇(8:27)－室堂(??)

【パーティ】初鹿裕康、市瀬江利子、平真里

今年の夏はマイナールートのクライミング
がいい、ってことで見つけてきた雄山の第三
尾根と龍王岳の東尾根。雄山の第三尾根はネ
ットを探しても見つからないほどのマイナール
ートなのだ。

B.Cは雷鳥沢。泊ったことがないので1度く
らいは泊って見たかった。剣沢に比べ近いの
で楽ちん。荷物は結構多めに持ってきた。手に
荷物なんて、大坪先生状態(+o+)でも余裕で到
着。天気はいまいちな感じだなぁ。

目が覚めたら、結構激しい雨。こりゃ駄目だ
と簡単にあきらめ、朝飯を食べて二度寝する。
しかし、だんだんと天気が回復してきたので、
龍王岳東尾根に行くことにする。この辺の地
形がよくわからなかったが、取付までは雪も
残ってはなく、登山道を途中まで下ってから
取付らしいところまでガレ場を登っていく。
途中、なんとこんな所に焚き火の跡がある。上
から見えそうなもんだが注意されなかったの
かな。取付にハーケンが打ってあるので、ザ
イルは付けないが、ハーネスを一応つけてい
く。ピンもそこそこ打ってあるので、ガイドが
使ったりしているルートなのかもしれない。

簡単なところを選んで登ったのだが、ザイル
をつけて楽しんだほうがいいかもしれない
ルートだった。まあ、快適に登れました。3級か
ら3+ってとこですね。

さあ、明日は雄山の第三尾根だ。

翌日は朝から雄山がばっちり見えている。
こりゃ、2本とも登れるじゃん、意気揚々と
一の越に向かうが段々とガスが出てきてしま
う、おまけに雨も。しかし、立山ってあんなに
人が登るとは思わなかった(だって積雪期し
か行ったことがないんだもん、って自慢か)。
富士山並ですなぁ。何となくRUNスタイルの
人がいるので立山マラニックのレースでもや
っているのかと思った(海拔0m-立山山頂、
65km、これも出てみたいな)。でも山頂にゴー
ルもないので何だろうと思っていたが、帰って
調べてみたら、昨日がレースだったのだが、雨
で立山駅で打ち切りになったらしい。だから、
今日登っていたんだね。俺だったらたぶん帰
る。

雄山の山頂の小屋に荷物を置いて、偵察す
るがガスは晴れそうにない。時々ガスが切れ
るが、回復する気配がないので、粘った末あき
らめた。そんなこんなで、立山の頂上に2時間
ほどいたら、ガイドの仕事で来ていた宮ちゃん
と久しぶりに会った。まあ、暇なので大汝山
まで行って終了点を偵察する。いずれにしても
よくわからん。室堂山経由で帰ることにし
て、みくりが池温泉に入浴。天気も晴れてきた
ことだし、風呂上がりに生ビール飲んで幸せ
な気分になる。

市瀬 江利子

山城:上信越中津川支流魚野川本流

日程:2009年9月19日(土)-9月22日(水)

1/25000地図:野反湖、岩菅山、切明、佐武流山

メンバー:市瀬江利子、初鹿裕康、山里守宏、北原浩平、平真里

2009/9/18 阿佐ヶ谷(21:30) 井荻 (21:50) = 野反湖

2009/9/19 野反湖(8:40)-渋沢ダム(13:30)-川原にてBC 焚き火&釣り

2009/9/20 BC(8:40)-黒沢出合(13:15)BC 焚き火&釣り

2009/9/21 BC(7:40)-南沢出合BC(16:30)BC 焚き火&釣り

2009/9/22 BC(7:30)-稜線(12:10)-赤石山 (12:40)-大沼池入り口 (15:15)

2009/9/23 草津温泉=帰京



.....

そういえば、今年は一度もちゃんとした?沢に行っていない。ということで、連休はみんなで焚き火や釣りを楽しめる沢、でもって5連休を有効に使える沢を探した結果、魚野川本流にたどりついた。

出来れば毎日、焚き火と釣りを楽しみたいということで、沢中に3泊。初日は野反湖から渋沢ダムへ向かい、川原に降りたところで、1泊。この日は風が冷たく、沢に入りたくないという意向からここをベースにした。川原への降り口は荒廃した営林小屋の手前から。FIXロープが張っている。岩魚は初日も数匹ゲットし、焚き火も盛大に。

翌日、箱淵を桂の沢から井戸沢まで捲いていく。踏み跡が思ったより鮮明でなく、間違えたなあと思っていたら、やはり高く登りすぎていた。井戸沢の近くにな

って、もっと沢よりに明瞭な踏み跡を発見。井戸沢から黒沢出合まで、特に問題なかったはず。黒沢出合に出てくる、もひかんの岩がナマリ岩。この変からの沢の様相は穏やかで優しい。黒沢出合にいくつかテンバがあるが、いまいちな感じ。更に進むと右岸にキャンプ場のような良いテンバが出てくるが先約ありで、私達はカギゼン沢手前まで行く。が、良い場所がなく、戻って右岸の草の生えた砂地をテンバにする。雨が降ったらちょっとと思うが、この先ずっと晴れの予報でたぶん心配ない。明るくて目の前には釣堀のような静もあり快適。ここで、全員が岩魚をゲット。お刺身と塩焼きでありがたく頂く。もちろん焚き火も盛大に。

翌日、連続する滝(ゼン)は、へつりと、捲きと若干の泳ぎで突破する。小ゼン沢を分け、燕ゼンへ。庄九朗大滝は左岸をガレ



山に問題集を持ち込み勉強する山ちゃん。累積勉強時間凡そ 15 分??



ナマリ岩



人生初の岩魚をゲットした平ちゃん

たルンゼから登り、トラバース。このトラバースでは念のためザイルを出す。ゴウトウを過ぎたあたりに良いテンバがあるが、南沢出合のテンバまで行ったほうが翌日安心ということで、南沢まで行く。がしかし、テンバは一張り分ほどしかなく、既に先約あり。戻って右岸になんとか空き地を探し、ブッシュを整備しテンバにする。しかし住めば都で、焚き火が出来れば何も言うことはない。はっちゃんのねばりでゲットした数匹の岩魚を塩焼きにする。

翌日は、赤石山への稜線を目指しての遡行。意外と上のほうまで魚影があったようだ。とにかく水量の多いほうを選んで行く。1750m地点で尾根を挟んで右と左に分かれるが、右を選ぶ。実は左に最初行き始めたが、ブッシュがうるさく急に歩きづらくなるので、戻って右にルートを取った。最後は根曲がり竹の猛烈な藪漕ぎ30分ほどで、登山道へたどり着いた。

後は登山道を赤石へ、そして大沼へ。大坪先生と奥さんに野反湖に置いた車をピックアップしてもらい、なおかつ迎えにきてもらい、その日は大坪先生別宅で、温泉とおでんで乾杯。色々とお世話になりました、ありがとうございました。



全員が岩魚をゲット



岩魚のお刺身。こりこりしていて美味しい。



へつる平ちゃん



この後、平ちゃん滝口へ落ちる



落ち口まであと少し



泳ぐ山ちゃん



稜線付近は紅葉真っ盛り



赤石山にて山ちゃんと北さん

北原 浩平



(日時)2009年9月19~22日(土~火)
(メンバー)L.市瀬・初鹿・山里・平・北原

沢旅の醍醐味は焚火だと思う。

沢をはじめめるきっかけとなった本が、ヤマケイの「沢登り」入門とガイドである。あの幻のゾロアスター教徒?(拝火教)吉川栄一氏が著者で極めてマニアックなガイド本である。泊まりで沢となると焚火のことがまず頭をよぎる。

夕げを終えて、徐々に皆が無口になり、しんしんとしてくる。焚火もいつの間にか熾きになっている。熾きのじわじわとした揺らぐ光を見つめていると、自分の意識と外界の自然の境目があいまいになってくる。この不思議な感覚が好きだ。遠い過去、知りもしない原始の記憶が呼び覚まされる気がする。

一人タープの下で寝た。台風が南の太平洋を東進しはじめ、吹き返しの風が吹き荒れている。突風が吹くたびに熾きに炎が戻り、周囲の闇が照らされる。テント

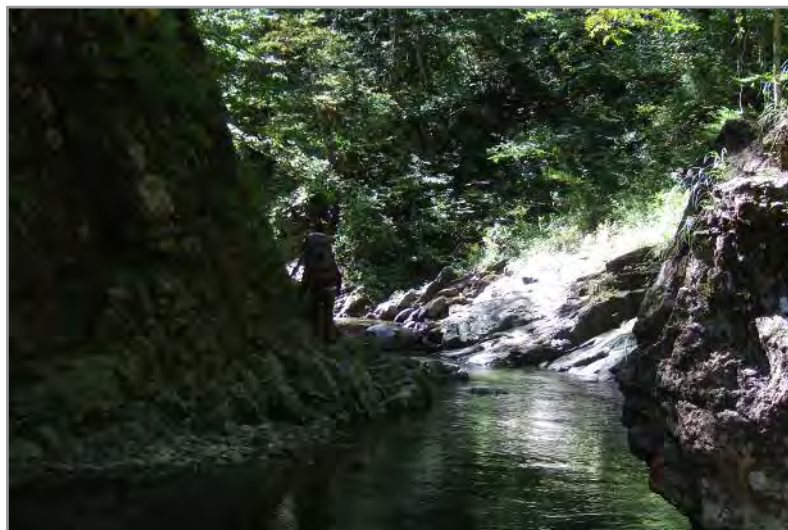
の薄い幕のあるなしで、こんなにも自分の感覚が違う。闇の向こう側にある自然の何かと常に交感しあっていて緊張が解けない。でも知らず知らずに寝入ってしまう。

テン場の眼の前で吊り上げた岩魚のことが思い出される。竿をふり針を水面に落とすと、すーとすりよってくる。と思いきや、この餌には興味ないよとばかり、戻るやにみえたたたん、身を翻して餌にかぶりつく。濃いうぐいす色の魚体とオレンジ色の点テンが眼に焼きつく。一瞬の合わせて岩魚がつりあがる。

沢旅は登山の一部ではないように思う。なにか自然にひたるというか、自然の一部になるための行為なのかも知れない。



沢準備が完了



魚野川本流の陰影



焚火と岩魚



ゼンの前にたたずむ



たおやかな流れ

旧友との念願の登攀 「一ノ倉沢2ルンゼ」 090927

浅井 邦夫



ザッテルにて

福島県喜多方市に住む岳友の佐藤和典氏との約束を果たす時が来た。この山行は、雨や急な仕事などで10年ほど流れに流れていたもので、ようやくと実現にこぎつけた。9月26日朝、浅井の自宅を二人で出発する。昼前に水上で食料の買い出しを済ませ、マチガ沢出合のマムシ岩でトレーニングをする。ここで、岡さんが合流。トレーニングを早々に終え、一ノ倉沢出合の避難小屋に入って夕食プラス酒盛りとなる。特に、佐藤氏持参の2009年度日本酒鑑評会出品の純米大吟醸を飲み、岡さん持参の沼田のモツ煮を食べ、大盛り上がりとなる。夜半に用たしで小屋の外に出ると、ガスが出ておりガスの切れ間から星が見える状態であった。

翌朝、4時に起床すると天気は同じ状態で、早々朝食を済ませ出合のトイレで明るくなるのを待つ。周りが明るくなり天気を確認するが、衝立の頭から上部や白

毛門のピークはガスの中だ。東京を出る時の天気予報では大きく崩れることは無いはずで、ガスも上がると予想して出合を5時に出発。ヒョングリの滝下で岡さんと別れ、右岸の高巻きではなく左岸に張られたフィックスロープを利用してヒョングリの滝を越える。やはり早い。

テールリッジもフィックスロープがしっかり張られ、安全なアプローチとなっていた。例の「板状の岩」も相変わらず健在で、とっても懐かしい気持ちで叩いて挨拶をする。それにしても、昔も今の様にフィックスが整備されていれば、このアプローチで命を落とさないでも済んだ人が多く居たはずだ。

中央稜の取付きに1パーティー居て準備をしている。ここで小休止。後ろから2人パーティーが追い付いて来る。烏帽子沢奥壁のトラバースでは、各ルートの取付きを確認しながら南稜テラスへ向かう。ここで、南稜を登ると云う追い付いてきた2人組と話をすると、一ノ倉沢は初めてと言っており、杉並労山所属だと話していた。初鹿、市瀬、二名の名前は彼らにも売れていた。

我々は、キジ場化した本谷バンドを念のためザイルを付けてトラバースする。

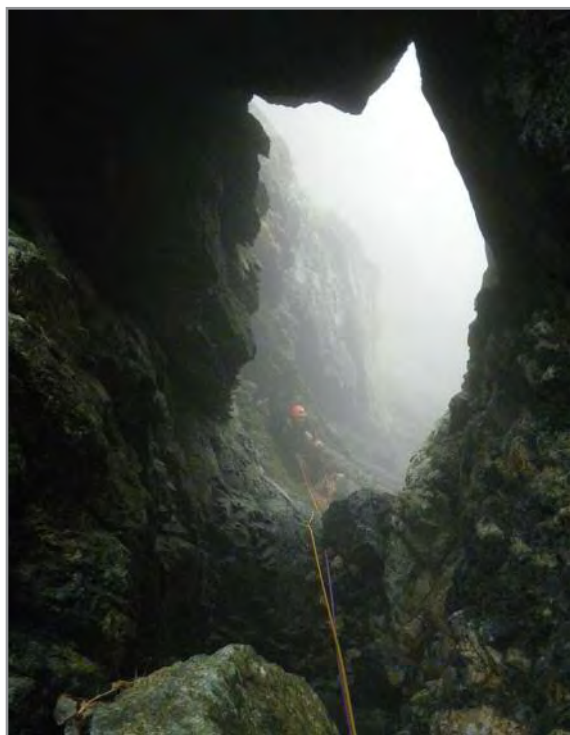
天気は回復の兆しが無いが登ることとして、8時に2ルンゼの登攀を開始。上部はガスで見えない。他に先行パーティーがないため、落石の心配は無い。

今回の山行は、浅井が全てトップと決め取付く。ルートは最初からルンゼをそのまま直上する。ただし、落石の心配もあり短くピッチを切って登る。所々に新しいボルトが打たれている。F1はやはり濡れていて緊張する。次に、狭い門状の滝だが、門状と云うより大きな穴を抜ける感じで、ここは右の壁から左に抜ける所が悪く、ザックを下して越える。セカンドの佐藤氏がフォローで背負って来てくれたのには感謝。後続パーティーが上がって来ている。この頃よりガスの粒が大きくなり雨っぽくなる。岩は濡れはじめ、上部の易しいはずのルートも滑りやすく支点も少ないことから緊張の連続となる。視界は益々悪くなり、滝沢右稜?の鞍部に飛び出るが、そこがザッテルかどうか確認できない。佐藤氏が上がって来て2ルンゼの登攀は終了、午後1時であった。

大休止をしながら広河原を目を凝らして探すが全く分からない。鞍部の灌木に懸垂の支点が取られているが、どう見てもそこからでは方向が違う。2ルンゼを背に右斜め下方向へ笹の中に一筋の道らしい雰囲気があるため下りて行き確認すると、露岩があり、そこに懸垂の支点があった。その先は、崖となっており乾いていれ



一ノ倉沢出合の小屋



F2下の狭い門状の滝を見下す

ばクライムダウン出来るのだろうが、濡れて悪いので懸垂することにする。ただし、視界が利かず下が見えないのと、下りたら広河原なのか全く分からない状態での懸垂となる。概ね40メートルで河原状の所に降り立つ。周りは全く見えない。状況から広河原と決める。前方左側に屏風

の様に岩壁が続いているルンゼが見える。これをAルンゼと決めコンテで詰めるが、濡れた滝にぶつかる。稜線へは、多く使われているBルンゼを詰めて稜線に出ることとしていたので、登り過ぎたようで少し下降する。マッターホルン状岩峰はまったく確認できない。位置的には、ほぼ間違いないと考えルンゼから岩場を右上し始める。

もはや完全に雨となり視界は10mも無い状況だ。意識的には壁を左方向にと思っていたが、直上気味に登れる岩場を拾いながら高度を稼ぐ。所々に残置ハーケンやボルトがあり、ランニングを取る。しかし、雨降りて濡れていて落ちると言う恐怖心が湧いてきて緊張の連続となる。視界も悪く支点も取れないし、風も出てきて声が届かなくなるのを嫌い短くピッチを切る。後続の声が広河原方向でしている。10ピッチ程登った所で夕暮れとなりヘッドランプを出す。ここまで来ると左右にルートを取ることはほぼ不可能な状況で、垂直のブッシュ帯に突き当たってしまう。一か八か強引にブッシュをつかみ登ると、平で広い尾根に飛び出した。縦走路だ。風雨が叩きつけてきて周りを見渡しても現在位置は確認出来ない。とにかく佐藤氏を登らせる。お互い濡れた手で握手を交わし、長かった登攀を終えた。後続は何処かでビバークに入ったようで声もしなくなる。再度、現在位置が稜線であることを二人で確認する。午後7時であった。昔、冬の一ノ倉尾根をこのパーティーで登った時以来の二人の山行だ。あの時も、稜線歩きが辛かったことを思い出す。

風雨の中、相変わらず視界が利かず、南にしばらく歩くと石造りの見たことのない鳥居が現れる。昔は無かったのでちょっと面食らう。平成12年に造られたようで、この辺りへは9年以上来ていないことが分かる。更に縦走路を少し登ると木柱があり「谷川岳山頂?」と書かれておりオキノ耳だ。写真を撮るが雨粒が多くて上手く写らなかった。更に南へ歩くと、肩の小屋への道標があり、少し下ると鉄塔が暗闇にシルエットとして薄っすら見え、西黒尾根方面への分岐となる。家族や岡さん等が心配しているはずなので西黒尾根を下ることとして下りに入る。しかし、ルートが視界不良で大変分かりづらい。厳剛新道に入って一か所ガレ沢の所でミスコースしたが登り返して下る。マチガ沢出合に着いたのは、夜中の0時を回っていた。マチガ沢出合に荷物を置き、雨が本降りの中、一ノ倉沢出合に車を取りに戻る。岡さんのメッセージが残されていた。その後、泊まるためと下山連絡を入れるため登山指導センターへ。自宅などへ電話とメールを入れる。しばらく休んで佐藤氏は、喜多方へ帰って行った。浅井は、センターで一泊し翌朝帰宅した。

今回の山行は、長年の懸案事項をやっつける事が先行し、天気状況を見捨てて入山した結果、20時間行動という強行軍となってしまった。また、皆に心配をかける結果となったことは反省している。ただ、まだやれるという自信が持てたことと、やり残しの山行が一つ無くなって大変うれしい。

喜多方山想会 佐藤 和典



ザッテルにて

そう言えば「浅井さんと登るのは何年ぶりだったか、それも何処を登って以来だっけ?」そんなことを考えながら一ノ倉出合に立つ。

そう、あれはもう30年近く前の冬の一ノ倉尾根だった。あのときは1ビバークで登ったけど、確か懸垂岩を巻く浅いルンゼで、トップに行く浅井さんが必死の形相で悪戦苦闘していたっけ。

今回の2ルンゼもまるで同じで、小生は浅井さんに頼りっきりの登攀だった。濡れ濡れのルンゼと、ガスった広河原からの「不明ルート(おそらくB・C中間尾根)」を合わせると全20ピッチほどを、終始トップで登ってくれた浅井さんに大感謝。

そして、終了点の国境稜線から西黒尾

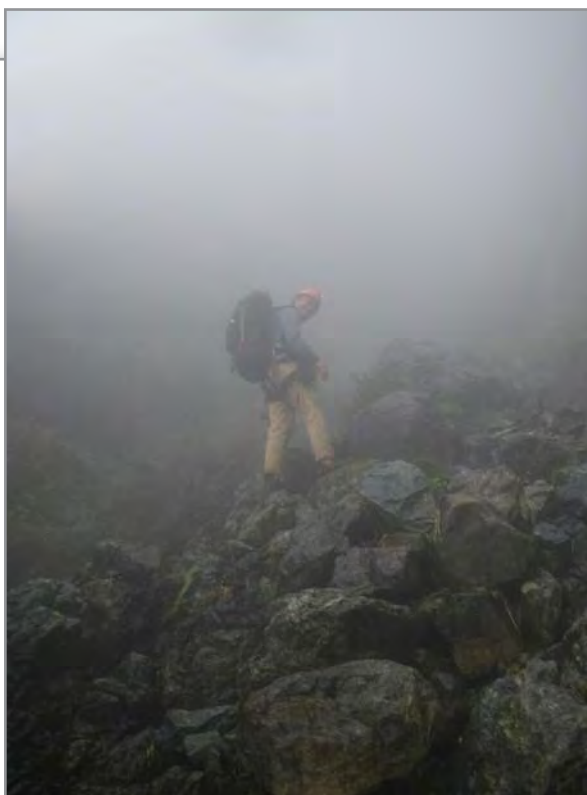
根を経てマチガ沢出合いに辿り着くまで6時間もかかってしまった自分に大反省だ。

この半年ほどの毎朝ランニング(一応最低30分・せいぜい4~5キロ)はいったい何だったのか?ともあれ「懸案」だった2ルンゼは終わった。

「ザッテル」という言葉の響きと「広河原」の明るい雰囲気魅せられて、一度は登らなければ・・・と、二人で約束してから、かれこれ十年目の実現だった。残念ながら、広河原の明るさも、快適のはずのBルンゼも、そして先人達がきり開いた歴史の重みも、すべてガスと霧雨に遮られてしまったが、それでも最終ピッチにヘッドランプを点けて終了した時の感動は大きかった。



テールリッジにてバックは衝立岩



広河原上のAルンゼ

国境稜線に辿り着いたのが19時。そして夜中の2時過ぎに心配してくれた仲間や家に漸く連絡出来た。

浅井さん、本当にありがとう。今度はもう少し「穏やかな」ところに行きましょう。小生もトップが出来そうなところに。

岡さん。御心配かけました。ヒョングリの滝まで見送って戴いて、とても心強かったです。出合の小屋で飲んだ酒が最高でした。

そしてプリムラの皆さん。ご心配をお掛けしました。あらためて御礼申し上げます。また今度、ぜひさそってください。そして、たまには我が会津の飯豊山でものんびりと縦走しましょう。

クライミング日記 最終章。

憧れのビックウォールへの道

…はたして「The Nose」は登れるのか？【後編】

水野 奈保美

まず、前回からの続き

7月～9月までの練習内容

*マルチもの/小川山:セレクション、広瀬ダイレクト(3P)/瑞牆:山河微笑(5P)調和の幻想(5P)寒々ルート(3P)不動沢愛好会ルート(3P)ベルジュエル(上部4P)*ワイド系/瑞牆:前絵星、よろめきクラックなど*アルパイン系/丸山東壁(敗)ほか、ショートクラック多数。天気に恵まれない日も多くて、十分な仕上がりとは言えなかったけど、Go Climb Rock!

期間:9月12日～27日

メンバー

宮川 良成(登攀クラブ蒼水)

大山 元市(クライミングファイト)

水野 奈保美

9/12 NRT→SFO→Buck Meadows

9/13 →Yosemite NP Camp4

9/14 Camp4

9/15 Fix4P

9/16 Rest

9/17 Go up→(9P)

9/18 9P→Dolt Tower→El cap Tower (14P)

9/19 El Cap Tower→Texas Flake→boot Flake→King Swing→Camp IV(20P)

9/20 Camp IV→Great Roof→Pancake Flake→CampV(25P)

9/21 Camp V→Glowing Spot→Changing Corners→(31P)→El Cap Peak→Yosemite Fall

9/22 Yosemite fall→Camp4→Bishop

9/23 Bishop→Buttermilk

9/24 Bishop→Camp4

9/25 Camp4→Berkeley

9/26 Berkeley→SFO

9/27 NRT





9月13日 Camp4入

いよいよ来ました。

SFOには12日昼前に着いたんだけど、BerkeleyのREI(アウトドアショップ)にも立ち寄ったのもあり、運転するのが思

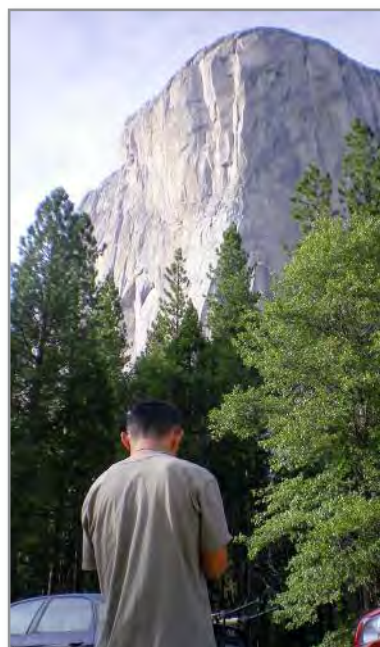
いのほか大変で(交代しても眠い!)バレー直前のBuck Meadowsで力尽きてモーテルに泊る(バレーに行っても露天寝だからね)。翌朝暗いうちにモーテルを出てバレーイン。Camp4へ行き、Kiosk(キャンプ場受付及びレンジャーステーション)に並ぶ列に加わる。ヨセミテ公園内唯



今年のレンタカーはどこのかよくわからない赤い車



宮川さん「あれがノーズ」



後ろ姿大山さん



今年のサイトは#5。大山さんのエスパースの後ろに座っているのは、K&K。

一の貧乏人のための木賃宿(1泊5ドラ)
Camp4は、予約制でなく、当日の朝に並んで場所を取るシステムなのだ。要するに早い者勝ちなので、これが嫌な人は予約の出来る「アッパー」パインとかにキャンプする。でもクライマーならやっぱ「キャンプフォー」だ。

チェックイン後、ひと足早く日本を発ちカナダのスコームッシュでクライミングをしていた宮川さんと合流。さっそく3人でふもとと街のOakhurstへ食料&装備の買い出しに行く。VONS(スーパーマーケット)→TacoBell(タコス屋)→Sports Shopの定番3本立てだ。

VONSにPower Barが全く売ってなかったので、足りないもの&忘れてたものはヨセミテ公園内のVillage Store&MountainShopで物色することにして、帰り道ながらエルキャップメドー&エルキャップの取り付けへ行き、改めてルートの様子と、混雑加減を見る。サラテ、ノーズともにすでにFIXが張っており、今のところ条件は同じだ。なので予めからのノーズに決定する。

Village Storeで残りの買い物して帰幕。明日ゾディアックにFIX張りに行くK&Kパーティ、スコームッシュから来たY君&A君らと、私たちの到着祝いと、これからのお互いの検討を祈って飲む。ヨセミテにに来る醍醐味はある意味、これに尽きる(飲みたいだけなのか?)。

9月14日 準備(1)ギア編

昼過ぎまでゆっくり寝られるのも今日と明後日なので昼過ぎまでのんびりする。

午後から3人揃ってギアを並べて分ける。ホールバックにダックテープ貼る(ストアに売ってたテープがダック印だった。商品名?みんなダクトテープって言うてるからそっちが固有名詞なのかな)ペットボトルにも貼る。ペットボトルは、心配性な大山さんの手配で大量に手に入れ、日本から手分けして持って来た2リッター×15本。

水は1日3人で8リッターの計算で、4本×4日ぶんで16本なんだけど、2人の過去の経験(ゾディアック)から、水は上に行けばそんなに必要なくなるらしく、捨



共同で持っていくもの一式。これと、個人のお泊まり用品が加わる。

てて帰る人も多いとのこと、キリよく1人5本ずつで15本。(まあ、これが最初の計算間違いではあったんだけどね)

あとは、キャメ3セット、エイリアン2セット、TCU、ハイブリットエイリアン、ナッツ、フック類。ハンマーも念のため2。単ビナ、環付きビナ、ヌンチャク、捨てスリング類。荷上げ用スタティックロープ1、メインロープ2。うんこバッグ。ツェルト。食料。+各自個人ギアとお泊まり用具、ディッセント用ザックを、ホールバッグ2個に分けてホーリングすることになる。これは、重いのか???ま、決して軽くはない。

VisitorCenterへ行って天気予報を確認し、Storeでビールとワインを買う。

無料(ワイヤレス)LANが使えるというのでヨセミテロッジに寄ってみると、ロビーのソファーにパスワードらしきメモが。おおっラッキー!!しかし何度試しても繋がらず、ヌカ喜びで終わる^^。仕方なくローミングでブログ記事をUPする(怖)。今回、iPhoneを駆使して本邦初?の

ノーズ中継ブログをアップした。

明日は4時6時。寝る前に大山さんに真顔で「がんばれよ」と言われる。そっか、やっぱ、私次第ですか。そうですね。

準備(2)食料編

食べ物↓。缶詰は主食+フルーツ3泊分。



主食は缶詰とベーグル。おやつはクリフバー。

缶詰の種類と大きさは日本と比べ物にならないので、選び放題だ(ハズレもあるけどね)あとはベーグル2種類、行動食にクリフバー系のキャンディーバー。

このフルーツ缶が、今回の(唯一?)素晴らしい癒しになろうとは！このときは気付きもしなかった。

9月15日 フィックス4ピッチ

- ・アプローチ 宮川
- ・1P 宮川
- ・2P 大山
- ・3P 宮川
- ・4P 大山

わたしの出番は無し。つうか、取付きまでのホールバッグの重さ、何よ。大山さんの「大丈夫？今まで経験したことない重さなんじゃない？」という優しい？(なめた?)ひとことにも「30キロくらいまでなら背負ったことあるし☆大丈夫だヨ！」なーんて言ったわいいけど、「30キロま

で」どころじゃない重さだった。だいたい、背負う前に膝に上がらないんだから！ホールバッグがもともと背負う仕様に作られてないとか、そういう問題ではなくて、マジ吐くかと思った。おえー。

で、後から日本語が少しだけしゃべれるイギリス人のアレックスと友達のトーマス(仮名)が登ってきた。空身だったから、シッケルレッジまで登りに来たフリークライマかなとも思ったんだけど、「あんたらもノーズ(登るの)？オー！ノーズ！イエー！ウギヤー！」とか騒いでたから、きっと仲間だわね(つれなくてごめんトーマス(仮名))。

私たちは冷静に荷上げしながらシッケルレッジまで登って、FIXして懸垂。トポには60m3本でオッケーと書いてあった。うそじゃないけど、不親切dayo。結び目通過懸垂(大山さんだけ)をするはめになってしまったのだった。



取付きで支度をする、ダブル師匠、大山&宮川。よろしくお願ひしマッス！



4P をリードする大山さん



シッケルレッジの宮川さん。



同、大山さん。



洗濯物はすぐに乾いてしまう。

9月16日 レスト

ゆっくり寝坊してHouseKeeping(ヨセミテ公園の施設のひとつで、バンガローと、コインランドリーとシャワーがあるのでこの名前がついている。と思う)行って洗濯と昨日行けなかったシャワー。洗濯待つ間にトポと日本から持って来たよその人の記録のコピーを改めてじっくり読む。

FIXロープの件。実際は4本使っているパーティーが2組。Village Storeで会った杉野保先生に文句を言ってみると「そうだよ」としれっとかわされてしまった。しかも、「3日で大丈夫でしょ。行ける行ける」などと軽く言われる。先生〜ちゃんと見て言ってる？

洗濯から戻るとK&Kパーティが戻って来る。朝ゾディアックにGo upしたけど、すごい順番待ちで進めずFIXだけしてき

て、明日仕切り直すとのこと。やっぱこの子たちは凄い。私も見習わないと！

いまのところノーズは昨日一緒だったニッポン好きのイギリス人アレックス&トーマス(仮名)パーティのみだ。よかった。しかも彼らはFIXだけだったみたいだし、明日は荷上げもあって、きっと私達のほうが早いでしょう。ずっと一緒に登るコトになるでしょうけどねっ！

そして、今年もキャンプ4に「おじさんおばさん元気ですかおじさん」が現れた。日本人を見ると片っ端から変な日本語で声をかけては、脅かしている(?)スパニッシュ系のおかしなおっさんなのだが、彼を見るのは今年で3回目だ。

最初の年はキャンプ4からいつの間にか居なくなっと思ったら、ビショップで再会。2年目はロッジのカフェでばったり会い、おおー懐かし〜！なんて言って握手などしてしまったものだ。まあ、この時期に毎年来てる(私らとたいして変わ

らない)ヨセミテ好きクライマーなんでしょうね。彼らにしたら、夏休みの小川山キャンプみたいな感覚なんでしょうね。羨ましい限りだ。

9月17日 Go up

3:00起床

5:15 Camp4

6:30 Start

・5P 水野

・6P 宮川

・7P 大山

・8P 宮川 stoveleg Crack

・9P 大山 ハンギングbivy

いよいよGo up。これであと4日は地上へ帰れないぞ(by 大山)これから何日もエルキャプの壁の中に居られるんだ☆♡(by 水野^^)。今日のBivyはドルトタワーの予定。7ピッチの登攀だ。

まずはFIXロープをユマーリングする。シッケルレッジでは、すでにアレックス&トーマス(仮名)が朝食の用意をして



シッケルレッジにユマーリング。



5P 階段状なのでホーリングが大変。

いた。やられた。若そうなのでとっとと先に行くかと思いきや、いきなり最初の2Pぶん都合4時間ほど思っきり待たされる羽目になってしまった。むーん。

ここでアレックスはフリーラインを使って1Pぶんとばす大トラバースをする。少し間があいたので、ほっとはしたが、寝た壁に、度重なるトラバース。重ーいホールバッグ、慣れないシステム。こちらのペースも遅々として上がらない。美しいストーブレッグクラックを越え、ドルトタ

ワーまであと2Pというところで、日没。初日からヘッデン作業になった。

しかも、外傾したチムニーというか凹角というか、僅かな隙間に挟まってハンギング1人(水野)ほんの数10センチのテラスに突っ伏して1人(宮川)ハンギングホールバックにのっかって1人(大山)。

それでも出だしのアレックス&トーマス(仮名)待ちがなければドルトタワーまで行けたんじゃないかと話しながら、口にはしないけど初日にこれじゃあ、ひょ



6P フォールバッグが重いのでフォローするのも一苦勞 (1つしか写ってないけど、2個一緒にホーリングしてます)



8P Stoveleg Crack 初登時にストーブ（コンロ）の足を加工してプロテクションを作ったというのが名前の由来。

っとしたら3日どころか、4日でも無理かもしれない…なんて気配が漂いつつ、ハンギングで腰いて一、といいながら、iPhoneでブログに今日の記事と写真アップする。

9月18日 2日目

9P→Dolt Tower→El cap Tower

- 10P 宮川
- 11P 大山 Dolt Tower

- 12P 大山
- 13P 宮川
- 14P 婆 El cap Tower
- 15P テキサスフレック 大山

寝たのか寝てないのかよくわからない bivyも明け、今日は昨日の遅れを取り戻して Camp IV、せめてその手前まで稼ぎたいところ。

薄ら寒い夜明け以降、日が当たってく



ハンギング bivy 明け。出発の支度。



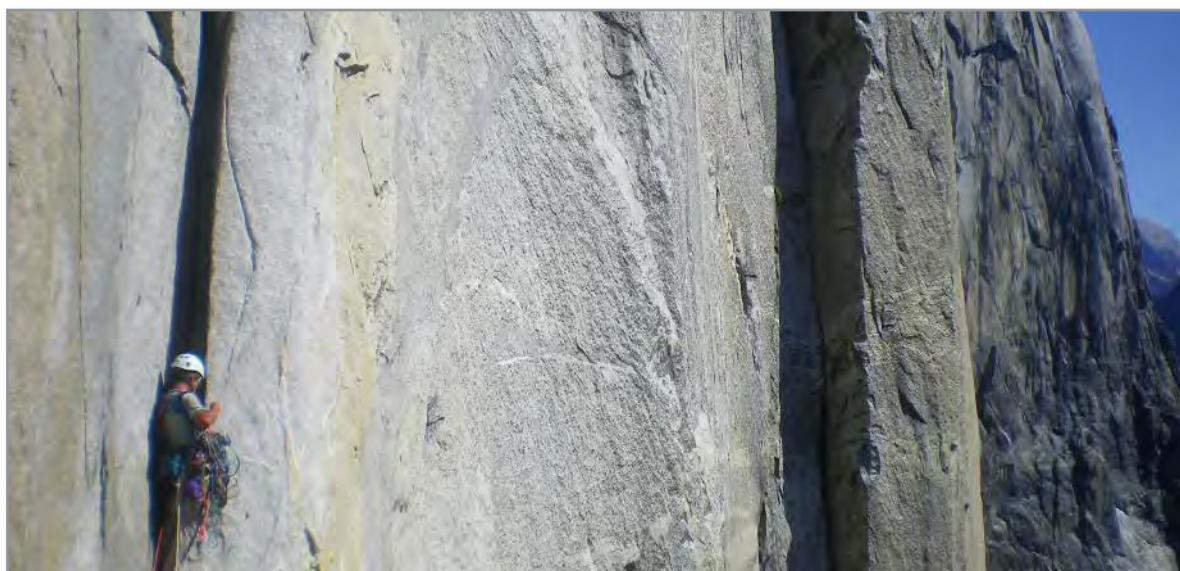
やっと空が白んで来た。



荷上げる宮川さん



昨日泊まるはずだった Dolt Tower。ここまで来れていれば快適な bivy だったでしょうね。



12P (大山) 下降してからトラバースするのでしばらくプロテクションがとれない上、このオフィズス！しびれます。



ると、一気に灼熱の真夏に変化する。すごく暑い。乾燥しているので、汗がべたつくうっとうしさはないが、大山さんも、宮川さんももうすでに日焼けで真っ黒だ。Dolt Towerに出たところで、あまりの暑さに1枚シャツを脱ぐ(ってブラトップ。他に

やっと着いたエルキャップタワー。まともに寝られたのはここだけだった。

人がいないからいいや、みたいな…。首だけ真っ黒になるのが嫌だったんだもん)でも半端じゃない直射日光に焼かれ、かえって痛いくらいだ。

今日も思うようにピッチが進まず、El cap Towerで bivvy。私は荷物の整理と夕ご飯(とはいえ缶詰めだけど)の用意、大山さんはもう1P FIXを張りにテキサスフレークに登り、宮川さんはビレーをする。このままでは1bivyオーバーになる可能性が、いよいよ強くなってきた。

それでもEl cap Tower は唯一横になって寝られた広々としたテラスだったので、気も体も休まった。

9月19日 3日目

El Cap Tower→Texas Flake→Boot Flake→King Swing→Camp IV

- ・15P 大山 Texas Flake(FIX)
- ・16・17P 宮川 King Swing
- ・18・19・20P 大山 直上してトラバース



9/19 ブーツフレークへのボルトラダー



ブーツフレーク。実際はこんなにでかい。この上のテラスから20mの振り子トラバース Kings Swing をする。



宮川さんのキング スウィー—ー—ング！

テキサスフレイクは、最近私が大好きなBack&Footのすごく素敵なチムニーだ。Boot Flakeまでのピッチもすごく美しいフェイスだ。The NoseメインイベントのひとつのKing Swingも、とても素敵。昨日も今日もこんなすばらしいルートなのにユマーリングなのは本当に寂しい。力不足を感じてならない。来るのがまだ早かったと実感する。しかしここまで来て不貞腐れていても仕方がない。自分の仕事をしなければ。逆にここまで来ただけでも幸せモノじゃあねえですか。(次のパートナーは永遠に募集中dayo！)

さて、King Swing。20mの振り子トラバースだ。昨日アレックスは30回くらい降られていた。私たちの担当は宮川さん。無駄な労力を使わずうまいこと成功する。

この時の様子は、2本動画とってみたので、youtube見れる人は見てみて下さい

(2番目の動画をみると成功してそうだが、実はまだしばらくかかった)

* ↑ <http://www.youtube.com/> で「キング スウィー—ー—ング！」で検索。

本日このあと3P登って、暗くなってからCampIVに到着。アレックスとトーマス(仮名)に割り込んで、座りbivyとなった(初日より悪かったわ！！)

頂上まであと11p。

9月20日 4日目

Camp IV→Great Roof→Pancake Flake→CampV

- ・21P 宮川
- ・22P Great Roof 大山
- ・23P Pancake Flake 宮川
- ・24P 大山→CampV

アレックス&トーマス(仮名)より早く起きて取付くつもりだったが、彼らもそ



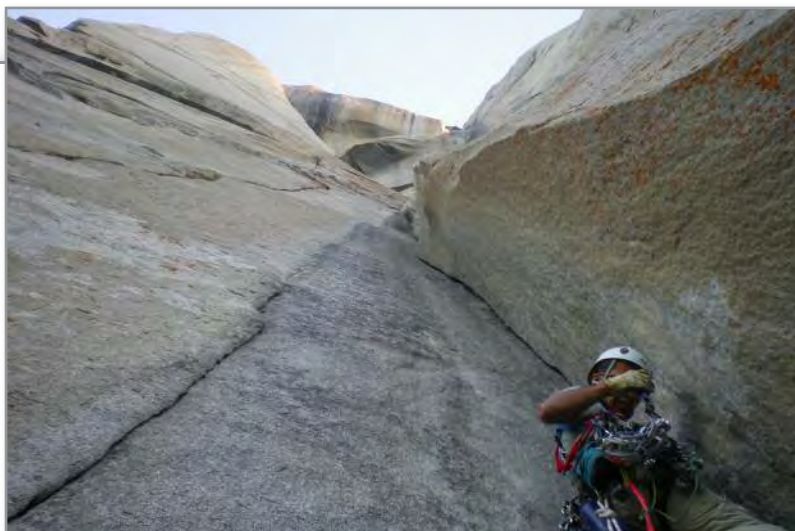
9/20 22P Great Roof (大山) 素晴らしいルーフ。残置がたくさんあるので案外やさしい。ユマーリングの方が大変。

うは抜かさせてくれない。陣取っていた場所の関係もあって、先に出られてしまい、Great Roof待ち4時間。だったら広くなったテラスでゆっくり寝てれば良かった。また予定がかなり押してしまう。ほんとうはCamp VIまで行っておかないとキツイんだけど…まあ頑張っって少しでもピッチを伸ばして行くしかない。

ヘッドウォール部分に入り、ルートはまっすぐ伸び、ますます高く、白く輝き、壁も立ってきて非常に素晴らしい。ああ、なんて美しいんだ！足もととはものすごい量の空間が広がっている。最初は見上げていた対岸のカシードラルウォールも、今ではすっかり見おろしている。ここまで来れて本当に幸せ！



23P Pancake Flake (宮川) ああなんて美しい！



凄い早さで登ってくるベルギー君たち



カシードラルがもうすっかり低い

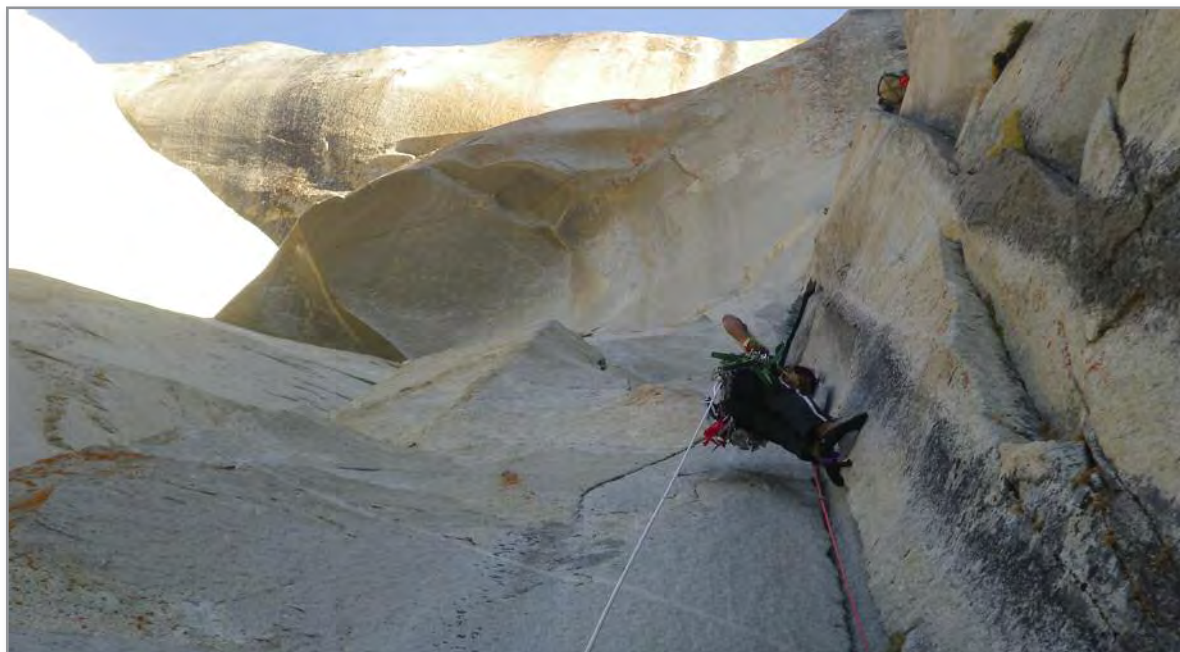
9/21 26P Glowering Spot (大山)

リード&荷上げ、セカンド&クリーニングは2人のお仕事。私は2人の後をひたすらユマーリングするだけだ。次のアンカーに到着した時は、だいたいすでにリードが登り始めているので、ロープをさばくのを手伝ったり、食べ物を出してあげたりするのが私の唯一の仕事だ。わたし用のフィックスがセットされるまでは何もすることがない。アンカーにぶる下がつて、岡さんに頂いたデジカメのシャッ

ターを切る。

今日も時間いっぱいCampV。3人が横になれるほどの広さはなく、今夜も座りbivyだ。でも昨日よりはるかにまし。

毎日のお楽しみフルーツ缶は昨日で終わってしまい、とても寂しかった。早く好きなだけ水分をとりたいにゃー。でも私らは水を飲むな教育を受けた「昔の人」だからね。このくらいじゃまだ大丈夫。



9/21 27P Changing Corners (宮川)

9月21日 5日目

Camp V→Glowing Spot→Changing Corners→終了点→Yosemite fall

- 26P 大山
- 27P Changing Corners 宮川
- 28P 大山
- 29P 宮川
- 30P 大山
- 31P 水野 18時に終了点到着

どんなことがあっても、今日中に登りきらなければ！水も残り少なくなってきたことだし。ディッセント分も考慮して、おとといから朝2リッターを3人で分け、午後1.5リッターを3人で分ける生活が続くなか、いろいろ学習していた。

- 水はひと口ずつ嚙むようにして飲む。
- 口で呼吸をしないように注意する。

それでもしゃべったり、登ったりすると咽の奥のほうまでカラカラに乾燥していく。そのせいか宮川さんはしきりにせ

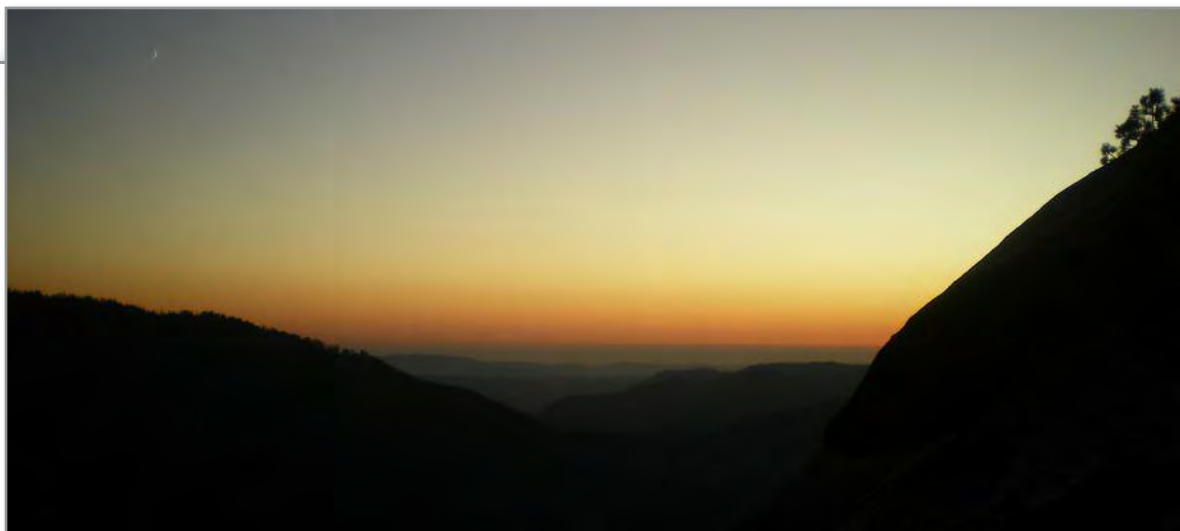
き込んでいた。しかも、ドルトタワーからエルキャップタワーから上は風が強くなり、何もしなくても「ただ居るだけ」で水分を奪われていく。El Cap Towerでちぎったベーグルがあつという間にカチカチに乾燥してしまったのには本当に驚いた。私たちは想像を絶する乾燥状態のなかでクライミングしているのだ。

今日はもうひとつのThe Noseメインイベント、Changing Cornersだ。あのリンヒルが何度も何度も何度も何度もトライしたというけど、難しさだけでなくこの高度と、ここまで来る労力も含めて、このフリー化は実際人間技とは思えない。ユマーリングだと完全な空中ユマーリングとなり、ユマーリング28Pで中1番苦しいピッチだった。

その先は真っ青な空に向かって美しいクラックをひたすら登る。最後の31Pは簡単なボルトラダーなので、私がリードさ



9/21 29P (宮川)



毎日みていた美しい夕焼けだが、終了点間際からみた景色は格別だった（三日月が出てるのわかります？）



終了点にて。ベルギー君たちに撮ってもらった。

せてもらった。感謝！

終了点が近づいてくるところ、日が沈みはじめた。ああなんて美しい夕暮れ！…終了点にFIXして、最後の荷上げ。セカンドで登ってきた大山さんがさらに平らなところまでピッチを進め、最後の藪こぎ荷上げをもう1回したあと、荷を解く。あゝ———、お疲れさまでしたあ！

ホールバックを文字通りひっくり返して、ディッセントの用意やらギアの整理やら小1時間ほどGDGDしていると、後続のベルギー君たちも到着。写真を撮ってくれというので、ついでに私たちも撮ってもらった。

→El capitan 山頂22時

山頂では、数パーティーが焚き火をして宴会をしていた（欧米人は違うよなー）。ベルギー君たちはそっちへ吸い込まれて行った。私らも泊まるか迷うが、す

でに1日遅れなので無理をしてもヨセミテトレールを降りることにする。

→Yosemite fall 24時 仮眠。

と、歩き始めたものの、あまりの眠さに一旦仮眠してから下ることにする。レンジャーに見つかりませんようにと祈りながら道端での大きな石のまわりで寝る。

9月22日

Yosemite fall→Camp4→Bishop

冬のような寒さで目が覚めた。エルキャップの一枚岩は日中の強烈な日差しで暖められて、夜遅くまで保温が効いていてちっとも寒くなかったからね。

寒さに震えながら片づけ、Camp4までのザラザラトレイルを下りにかかる。

下ったり登ったり登ったり下ったりしながら、Camp4ボルダー群が見えはじめた時は、緊張が解けたのか涙腺がゆるゆる緩んできてしまったので、すごい勢いで駆け降りてごまかす^^。

ボルダー群に到着し、改めて3人で握手&ハグする。あー、ほんとうにお疲れさま〜！どうもありがとう！ああ終わっちゃったヨ！うぎゃー。うるうるうる。

**て な わ け で 、
これで お・し・ま・い 。**

ある意味ド素人な私がノーズなんて登れたのも「ダブル師匠宮川&大山」のおかげでございます。本当に、心から、ものすごくありがとうございます！（なぜか敬称略）

*ちなみにこの後は、エルキャップメドーに置いて来た車をシャトルバスに乗って取りに行き、シャワーを浴び、ロッジで食事して、その足でBishopに休養に向った。Bishopのモーターでギア分けをしたり、ステーキ食べたり、Buttermilkへマンダラ見に行ったり、ステーキ食べたり、お買い物したりと、2日間ゆっくり疲れをとり、いったんバレーに戻ってからBerkeley経由でSan Franciscoから成田へ。

*今回はNoseだけで、他のルートには全く触って来なかった(ボルダーさえやって来なかった)ので、来年はショート&マルチをきっちり登りに行こう。そして、次の目標につなげるのだ。

*追記1:ゾディアックの2人K&Kも、同じ日に完登してました。おめでとー！！お疲れさま。またゆっくり話そうね。

*追記2:Camp4で朝ご飯の支度してた「おじさんおばさん元気ですかおじさん」に「ねーねー私らノーズ登って今降りてきたんだよー」って言いに行ったら、一瞬マジメな顔になって「おー！グッジョブ！」って感心してくれた^^おじさん、また来年会おうねっ！

*以上をもって「なほみさんのいつまでたってもうまくならないクライミング日記」は終了させていただきます。長い間のお目汚し、申し訳ありませんでしたね。とはいえ、なほみさんのクライミングは終わったわけじゃないので、毎週どこぞの岩場の割れ目に挟まってヒーヒー言ってるでしょうから、見かけたら「ぷっ」失笑してくださいねん。んじゃーねー。

*ご参考URL。

<http://slabarsan2009.mizunodesign.com>

<http://mt.mizunodesign.com>

<http://www.youtube.com/watch?v=IgLQbKKtyv0>

景色を見ながら！ —夜叉ヶ池伝説マラニック—

初鹿 裕康



3月の荒川マラソンも最近のマラソンブームで、あっという間に定員に達してしまい出

損ねた。トライアスロンもBIKEの調子がイマイチなので長いレースに出るの是不安だし…。トレイルランの大会も考えたが場所が遠かったり参加費が高かったりして、申し込みそびれているうちに、時は過ぎて行った。そんなんで半年以上レースに出ていなかった。で、前から参加しようかどうか迷っていた、途中で1泊して、翌日またレースをするなんていう2ステージ制のレースに申し込んでしまった。距離は初日45.1km、2日目89.6km、2日目は夜叉ヶ池まで登山道を登るというトレイルランの要素もあるロングレースである。場所は岐阜県安八郡神戸町。いつも遠くのレース参加で困るのは宿。今回は中1泊なので家族の宿にさらに困ったが、家族はボランティアに参加することで、一件落着。

スタート時間に東京からその日のうちに行くのは厳しいので、青春18きっぷを使って前々日の夜行列車で大垣入り。夜行列車に乗る前に東京駅周辺の銭湯に行

ったら、皇居を走るランナーだらけで足の踏み場もないほどの盛況ぶりだった。あんな混んでいる銭湯入ったの久しぶりだわ。

「ムーンライトながら」で大垣に着いてもまだ眠いので、車内で寝るべく京都まで足を伸ばし、ついでに清水寺を見学し、この日は養老の滝(飲み屋ではない)近くのキャンプ場のロッジに泊まる。夏だというのに泊り客は我々だけ、いいのか?? ちなみに今日はレース前日、酒抜きです。

翌日、レース1日目。出発前にスタート地点にデポして行くものと、今日のゴール地点及び夜叉ヶ池登山口に運んでもらうものを分けなければならない。今日のゴール地点に送るものは、着替え一式、お風呂セット、サンダル、エアマット、ヘッド巾、バンテリン、キネシオ、サロメチール、明日のレース用具(ランシャツ、4DMのロングタイツ、靴はゲルフジ、靴下)、結構かさばりますが運んでくれます。登山口にはゼリー飲料1個のみ送る。

午前11時神戸町役場をスタート。ウルトラマラソンらしく、選手自身がスタート風景を写真に撮ったりしている中でのスタートとなる。しかし、信号遵守なのでスタート直後の信号で、全員ストップ。ちょっと笑える。今日は、ほぼフルマラソンの距離。どれくらいのスピードで走れば



というもので、まずは夜叉堂にてお参りしてから、先へと進むのである。ちなみに今日の服

よいのかわからないので、まあ成り行き任せでいこう。例年超暑いらしいのだが、今年は曇り空、今にも降ってきてそうだ。最初

しばらくはトップ付近で走る。大会の趣旨は「1300年続く"雨乞い伝説"の道程を、先人を偲びながら自らの足で追体験する事を目的とし、伝説発祥の地、安八郡神戸町より龍神が棲むという山上の池、夜叉ヶ池(標高1105m)までの往復(約135km)をマラニックにて踏破するものである」



装は、上はもう20年以上も使っているカモシカのガラクタ市で買った100円(当時消費税はなかった)のKappaのランシャツ、下はユニクロのハーフパンツ(アンダーパンツなし)、「ウエストバック携行」と書いてあったので、ほぼ何も入っていないウエストバックに、帽子である。しかーし、



長年使っているだけのこともあり、上のランシャツ安全ピンの穴だらけ故、途中でナンバーカードが取れそうになり、ボランティアに着け直してもらったりするトラブルあり(+o+)。そして、雲行きはだんだんと怪しくなってくるのであった…。途中のエイドで飲んだ、何か変なものを残す。あとで聞いたらこのレース名物の梅ジュースだったらしい。

やがて雨がぼつぼつ、雷がごろごろ鳴り出したかと思いきや、ドッカンと目に見える範囲のどこかに雷が落ちた。かなりビビった。雨が激しく降り出し、スコール状態となる。涼しいのはいいが、道は川のようになってしまった。目の前も雨で見えない感じ。でも走るしかないよね。ランナーも結構バラけてしまって、一人旅になることが多いのだが、コースがいまいちよくわからなくなったりするので、前後にランナーがいないと心細い。エイドにはスイカや細巻き、梅干し、バナナ、オレンジなどがあって困ることはないが、最後の方のエイド間の距離が7.5kmもあったので、ここだけはもっと

気温が高かったら、もっと厳しかったかもしれない。途中で雨で服がぬれてしまったので、おなかが痛くなり藪に入って用を足したりしたが(紙?そこは山や。かぶれないでよかった^_^);、それ以外は思ったより順調に走れた。1km6分計算で5Kmで30分を目標に走れば4時間30分でゴール出来る。例年だと結構いいタイムだ。最初の5kmは23分台で入ってしまったのでちょっとびっくりした。後半10kmはさすがに落ちて30分で回れなかったが仕方ないでしょう(33

分位)。ゴール手前2.5kmのエイドに家族がボランティアをしていたので目標に走る。他のボランティアに速いねーと言われつつ、娘にスポーツドリンクをもらって、ゴールを目指す。「道中まつり」会場の中を通過してゴール。結構速い方だった、とりあえず今日は…。荷物を受け取って、仮設シャワーがあるので浴びに行くが、なんと食堂の裏にシャワーが5つくらいホースからつながっていて、黒いシースルーのでかいテントの中に、おふろマット(1人用)が8つくらいあるというもの。んー、個室じゃないのね。ゴ



ールすると弁当券とお祭りで使える100円券×10枚をくれる。ゴールした皆さんビールなんぞを飲んでいるが、レース前日とレース中は飲まないと決めているので(だって、明日90kmも残っている)、しょぼい、しゃけ弁当(半人前くらいの量)を食べ、ウナギやらダチョウの肉やら買って食べて、祭りを見物して、今日の泊り先である坂内小中学校にマイクロバスで移動する。体育館に送っておいいたエアマットを敷き、毛布を1枚もらう。外ではまだ宴会中の人たちもいるし、ボランティアが「ビールいかがですか~、200円です」って売っている声も聞こえるし(あゝ~、うちの娘の声ジャン)、19:00頃から寝ようとするがなかなか眠れない。明日は2時起床だ~。

そして翌日。2時に体育館の明かりが灯る。オレンジとバナナ2本、おにぎり2つの朝食を貰って食べ、3時半のスタートに備える。今日はロングタイツ。夜中かなり雨が降ったようだが、雨は上がっている。3時半一斉にスタート、今日はみんな速い

ねえ。ヘッドランプを点けて走るが、街灯の明かりとサポート車のヘッドライトの明かりで、ヘッドランプなくても何とか走れそうではある。今日は1Km7分半の設定。最初、暗かったので5Kmの看板を見逃した。でも、最初の10km1時間4分で走れたので、出足はまあまあである。途中トイレに1回寄って行く。登山口まで20kmほど走りいよいよ、登山開始。このエイドで500mlのペットボトルをもらって山へと入る。簡単なハイキング道だと思っていたが、大間違い。前のほうの選手が、かなり急な所を登っているのが見える。夜叉壁というらしい。固定ロープを頼りに、グイグイと登っていくと、こんなところにこんなに大きな池がという感じで夜叉ヶ池に着く。ここで写真を撮ってくれる。さて下り、夜叉壁の所は後続と交差しながら何とか下るが、そこから先の登山道は後続のランナーに結構抜かれる。みんな元気だなあ。ストックを使って登ってくるランナーもいる。林道終点を過ぎ、山岳の部分は終わり。ここは10km2時間強かか



った。あとは同じ道を戻るだけ。同じ道を戻って行くと、途中のエイドにかき氷あり。もっと暑かったら魅力的だなあ、ソーメン食べて元気を出す。昨日泊まった体育館のエイドまでは順調だった。ここまで、今日45kmだ。しかし、やっぱりここからが辛かった。気温は25℃。ここから先は1km8分かかってしまう。エイドの間が長いところはペットボトルにお茶を詰めてもらって、ウエストバックに入れて走るが、横に振れたりして、ちょっと邪魔くさい。後半はもらった飴とかをウエストバックに入れて走った。昨日と同じ所で昨日と同じようなスコール。股ズレがひどい。やっぱりインナー穿かないとダメかなあ。登りも走っているのかわからない位の、ほとんどジョグ。でも走っているつもりだけにはなりたいたので、歩かない。もう何十人にも抜かれた気分。情けない。でも16:15に着くと自分の予定通りのペースではある。これで行けば全体の3分の1には入れる。途中のエイドにスペシャルドリンクが・・・(ビールです。思わずもらいそうになってしまった)。

最後の130Kmの看板がなかなかやってこない(実はなかった)。もう既に5km37分半の予定タイムを30分くらいオーバーしている。マジで～。最終エイドと言われてあと何kmですかと聞けば6kmとか??うそでしょ・・・。気落ちしながら走っていると、どんどん抜かれていく始末。その先の私設エイドでちょっと元気をもらいゴールへ。ここも最後はお祭りの中を走ってのゴール。ボロ雑巾のようになってのゴールとなりました。

初日のお祭りでやっぱビールくらい飲んでおかばよかったかなあ。そうすればもう少し楽しめたかも、でも、飲んじやったら今日走れなかったかもなあ・・・。ちょっと、ジレンマ。

出走249人完走181人(完走率73.0%)

1日目

第1ゴール45.1k4:26:0231位

2日目

林道終点66.2k2:24:19 33位

夜叉ヶ池69.3k3:11:1331位

復路坂内93.4k 6:33:56 40位

神戸ゴール134.7k12:44:08 66位

2日間総合 17:10:10 56位



股連れしているし、足は豆だらけで血だらけだし、ゴール後風呂に入浴するのも大変だった。でも、介護予防施設の風呂なので手すり一杯あって良かった(*^_^*)帰り際に「また来年も来てね」って言われたけど、まあ、すぐにはウンとは言えないでしょ…。

おまけ 調布市アクアスロン

この所恒例だった、西東京市のトライアスロンも、ブームの終焉(?)とともに今年は開催されなかった。『月刊トライアスロン』が廃刊になって、いまや『月刊トレイルラン』になっちゃたもんなあ。残念なので調布市のアクアスロン大会に参加することにした。SWIM200m、RUN3.4kmである。しょぼい大会なので入賞したいなと考えてはいたが…。40歳以上50歳未満のカテゴリは10人参加。なんとか頑張ろう。

まずは200mSWIM、気合入りすぎて飛ばしすぎ。3人同時に泳いで、ターンして次のコースに移動するのだが、最初のタ

ーンをTOPで行きたいがため最初の50mを飛ばしすぎた。残りの2人も速く、最初のターンまでに1人は断トツ速く、すでに70mで2人に置き去りにされていた。最初に飛ばしたのがたたり、後半50mはアップアップだった。靴を履き替えるときに1人抜き返すが、最初の1kmで抜かれ、あっという間に引き離されてしまった。150mくらい先には見えるものの結局、そのままの差でのゴールとなった。3人泳いで3番目はちょっとショック。後ろのグループの1人にも抜かれたので入賞はないな。結果18:52で10人中5位だった。結構レベルの高い大会だったようです(と、言い訳)。ついでに娘も参加。でも、近隣のスイミングスクールの生徒ばかり。25mSWIMと1.2kmのRUN。8:07で21位/23人でした。小学生というカテゴリはちょっと広すぎでしょ…。高学年は速い…。仕方がないのでサントリーのビール工場に行ってビール試飲して帰ってきました。

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
2605	7/4・5	奥秩父	廻り目平/不動沢・前絵星	水野・他1	フリー
2606	7/4・5	上州	小檜俣川本流	初鹿・市瀬・平	沢
2607	7月4日	奥多摩	氷川屏風岩	浅井・北原	RCT
2608	7/11・12	奥秩父	瑞牆山十一面正面壁/不動沢前絵星	水野・他2	フリー
2609	7月11日	奥多摩	越沢バットレス	小堀・佐藤・柿園	RCT
2610	7月11日	奥多摩	岳嶺岩 救助隊訓練	市瀬・平	RCT
2611	7/18～20	南ア	北岳バットレス(敗)	佐藤・柿園	アルパイン
2612	7/18～20	尾瀬	北岐沢・大薮沢左俣～右俣	初鹿・平	沢
2613	7/19・20	奥秩父	不動沢屏風岩/十一面末端壁	水野・他2	フリー
2614	7/20～22	屋久島	宮ヶ浦岳	北原・他1	縦走
2615	7月19日	奥多摩	越沢バットレス	小堀・浅井・市瀬・平	RCT
2616	7/25・26	奥秩父	廻り目平/不動沢屏風岩	水野・他2	フリー
2617	7/26・27	岐阜	2009夜叉ヶ池伝説マラニック	初鹿	トレイルラン
2618	7月26日	日光	女峰山	山里	ハイク
2619	7/27～30	尾瀬	尾瀬	大坪・他17	縦走
2620	7/31・8/1	奥多摩	戸倉三山	初鹿・他5	ハイク
2621	8/1～9	東北	八甲田山	大坪・他18	縦走
2622	8月1日	奥多摩	日の出山	市瀬・平	ハイク
2623	8月1日	奥多摩	青岩谷(敗)	初鹿・浅井・山里	沢
2624	8/2～4	北ア	後立山 唐松から五竜岳	岡・他25	撮影登山
2625	8/8・9	奥秩父	廻り目平/瑞牆山不動沢	水野・他1	フリー
2626	8月7日	谷川岳	一ノ倉沢烏帽子沢奥壁南稜(敗)	小堀・市瀬・平・北原	アルパイン
2627	8/13～15	南ア	白根三山縦走	山里	縦走
2628	8月14日	奥秩父	瑞牆山十一面正面壁	水野・他1	フリー
2629	8/15～17	ハヶ岳	地藏尾根から硫黄岳	岡	撮影登山
2630	8/15～19	北ア	前穂北尾根・北穂東稜	市瀬・平	アルパイン
2631	8/16～18	北ア	双六・三俣蓮華・鷲羽岳	北原・他1	縦走
2632	8月18日	日光	丸山 恋路沢	初鹿・他2	ハイク
2633	8/22・23	北ア	丸山東壁京都府立大ルート	水野・他2	AAトレ
2634	8/22～24	尾瀬	尾瀬	大坪・他3	縦走
2635	8月23日	日光	白根山	岡	撮影登山
2636	8/24～27	北ア	双六・鷲羽岳	初鹿・他4	縦走
2637	8月28日	奥秩父	瑞牆十一面末端壁	水野・他1	フリー
2638	8/28～30	北ア	立山別山	岡	撮影登山
2639	8/28～31	北ア	立山雷鳥沢～竜王岳東尾根	初鹿・市瀬・平	アルパイン
2640	9月4日	奥秩父	瑞牆山末端壁	水野・他1	フリー
2641	9月7日	道志	高尾山～景信山	初鹿	トレイルラン
2642	9/11～13	北ア	針ノ木岳	平・他2	縦走
2643	9/12～27	USA	YosemiteNP El Capitan The Nose	水野・他2	ビッグウォール
2644	9月12日	奥多摩	氷川屏風岩	小堀・浅井・山里・初鹿	RCT
2645	9/19～22	上信	魚野川本流	初鹿・山里・市瀬・北原・平	沢
2646	9月21日	奥多摩	越沢バットレス	小堀・浅井	RCT
2647	9月26日	谷川	一ノ倉沢2ルンゼ	浅井・他1	アルパイン
2648	7/4・5	奥秩父	廻り目平/不動沢・前絵星	水野・他1	フリー



最近きになる詩(歌詞の抜粋)

歩き出すことさえもいちいちためらうくせに
つまらない常識などつぶせると思ってた
あのころの未来に僕らは立っているのかなあ
すべてが思うほどうまくはいかないみたいだ
あれから僕たちは何かを信じてこれたかなあ
夜空の向こうには明日がもう待っている(北)



久しぶりの岩の本チャン。ルートミスして、ノー
プロで長いピッチの登り、しょぼい木や、しょぼ
いピンに捨て縄つけての懸垂。いやー、シャレに
ならない。やっぱり落ちれないクライミングは緊
張する。普段の日常生活ではありえない緊張感、
クーたまらん。でも、3級クライマーだけの緊張感
かも(-_-)。(H)



ビッグウォールは、ものすごくでかくて、ものす
ごく長い「アルパインクライミング」だった。一度
行ったらしばらくやりたくないと言われてた
けど、今回「登って」ないし、今すぐにでも、これか
ら何度も何度も何度も行きたい。てなわけで、や
っぱアルパインクライミングはすごい。と思って
帰ってきた。エルキャップをユマーリングするよ
り、女性2人で穂高に行くのほうがずっとすごい
よ。次はヨセミテ行くのどう？>お2人(M野)

原稿の書き方、送り方について。

1. 入稿テキストについて

- ★プレーンテキスト形式でお願いします。
- ★文章中の「数字」「アルファベット」「記号」は半角で入力して下さい。
- ★機種依存文字は使用しないで下さい。(下図参照) これらの記号はWindowsパソコン以外では正しく表示されません。

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

I II III IV V VI VII VIII IX X
i ii iii iv v vi vii viii ix x

ミッ キ セン メー グラ ト アー ヘ ク リ ッ ヲ ッ
カ ロ ド ル ト セ ン バ ー ミ リ ベ ー

mmcmkmmgkgccm²
弴 “ „ Na.KK.Tel. ㊦㊧㊨㊩㊪
(株)(有)(代)明治大正 ㊫
≡ ≡ } \$ Σ √ ⊥ ∠ ⊥ ∠ ∴ ∩ ∪

機種依存文字

★コースタイムなどの矢印「→」「⇒」などを使用する場合は書式を統一して使って下さい。また、記号の前後のスペースは入れないでください。こちらで削除するなど手作業で統一しています。編集の仕事だとは思いますが、基本テキストはご自分で校正して頂きたいと思います。

- ★本文中に作者の氏名を必ず入れて下さい。
- ★【重要】文章の適当な場所に段落を作って、読みやすく書いて下さい。段落頭の1文字下げはしなくても結構です。(編集時にスタイルシートで制御します)

2. データ送付について

- ★データのファイル名
Macで受け取っている都合上、15文字以上の

ファイル名は判別しません。最小限でお願いします。また、ファイル名は必ず「半角英数字」でお願いします。スペースや「.」「/」「¥」など使わないでください。日付+名前+ナンバリング+拡張子でよろしくです。

例) 090101mizuno.txt
090101mizuno01.jpg
090101mizuno02.jpg

3. 写真キャプション

- ★キャプションは本文中に記述してください。文章のどのへんに入れて欲しいかも、ご指定頂くと助かります。

googleウェブアルバムの作成

- 1 <http://www.google.co.jp/>にアクセスして、右上の「ログイン」をクリックします。



- 2 メールアドレスとパスワードを入力して、ログインボタンをクリックします。



3 ログインした状態です。メールアドレスが表示されています。



4 メニューの「その他」にマウスをあわせるとプルダウンメニューが表示されます。「写真」を選択します。



5 アルバムのページです。「アップロード」ボタンをクリックします。



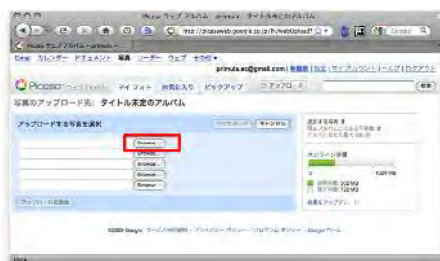
6 ブラウザの上にウィンドウが表示されます。「新規アルバムを作成」をクリックします。



7 新しいアルバムを作成するウィンドが表示されますから、アルバムのタイトルや日付を適宜入力して、「続行」ボタンをクリックします。このとき、一般公開を避けたほうがいいでしょう。



8 ここで、ファイルをアップロードします。「Browse...」ボタンをクリックして、指示に従ってアップロードします。



あとは、適宜いろいろいじってみてくださいね。
いろいろ面白いと思いますよ。よろしく。